

平成14年度  
農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書

小 林 市・県営ほ場整備事業山中地区  
(山中遺跡群)

都 城 市・県営畑地帯総合整備事業安久地区  
(王子原遺跡)

都 城 市・農用地総合整備事業  
(横市中原遺跡)

えびの市・県営ほ場整備事業末永地区  
(草刈田遺跡群)

清 武 町・県営農地保全整備事業船引地区  
(船引地区遺跡)

平成15年 3 月

宮崎県教育委員会

平成14年度  
農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書

小 林 市・県営ほ場整備事業山中地区  
(山中遺跡群)

都 城 市・県営畑地帯総合整備事業安久地区  
(王子原遺跡)

都 城 市・農用地総合整備事業  
(横市中原遺跡)

えびの市・県営ほ場整備事業末永地区  
(草刈田遺跡群)

清 武 町・県営農地保全整備事業船引地区  
(船引地区遺跡)

平成15年 3 月

宮崎県教育委員会

# 例 言

1. 本書は、宮崎県教育委員会が平成14年度に国庫補助金を受けて実施した、農業基盤整備事業に伴う発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、県文化課主査飯田博之、同主査竹井眞知子、同主任主事松林豊樹が担当した。調査にあたっては、関係市町村教育委員会及び同農政部局、各農林振興局、各土地改良区、緑資源公団、九州農政局宮崎農業水利事務所等の協力を得た。
3. 本書の執筆は、飯田・竹井が行った。

# 目 次

## 〈本文〉

1. はじめに	1
2. 県営ほ場整備事業山中地区（山中地区遺跡群）	1
3. 県営畑地帯総合整備事業安久地区（王子原遺跡）	12
4. 農用地総合整備事業（横市中原遺跡）	22
5. 県営ほ場整備事業末永地区（草刈田遺跡群）	26
6. 県営農地保全整備事業船引地区（船引地区遺跡）	31
(1) 坂元第1遺跡	32
(2) 坂元第2遺跡	35
(3) 周知外箇所	35
(4) 上猪ノ原遺跡	35
(5) 下猪ノ原遺跡	35

## 〈表〉

平成14年度 試掘・確認調査一覧

## 1. はじめに

県内の農業基盤整備関連事業は多くの地域で実施されている。

文化課では、開発事業と埋蔵文化財保護との調整をはかるため平成14年度に各種の農業基盤整備関連事業実施予定地の試掘・確認調査を行った。

本報告では、平成14年度に実施した試掘・確認調査のうち8遺跡を報告するものである。

## 2. 山中地区遺跡群

山中地区遺跡群は、小林市大字細野に所在する。本事業は、平成15年度から実施予定の県営ほ場整備事業山中地区である。事業採択前の今年度に小林市農村整備課と社会教育課、県文化課の間で、埋蔵文化財の取扱いについて調整が実施され、事業予定地の埋蔵文化財分布範囲の把握と今後の事業計画について協議を行った。

確認調査は平成14年11月19日から11月29までの間で実施した。基本土層は以下のとおりである。

- 1層 表土・現耕作土
- 2層 褐色土層
- 3層 黒褐色土層（径5～20mm程度の小レキが混入する）
- 4層 褐色土層
- 5層 褐灰色土（やや堅くしまっている）
- 6層 黒褐色土層
- 7層 褐色土層
- 8層 黒褐色土層
- 9層 黄褐色土と灰褐色土の混入土層
- 10層 黄橙色土層（アカホヤ層）
- 11層 灰褐色土層
- 12層 黒褐色土層
- 13層 褐色土に小林軽石が混入

確認調査は事業対象地に計49本のトレンチを設定して掘り下げた。遺物が出土しているトレンチは、1～3、5～8、11、18、19、23、26、28、33、34、37、38、43トレンチで中でも、3と43トレンチでは、竪穴住居跡と考えられる遺構を検出している。遺物の出土している層位は、6層の黒褐色土と7層の褐色土層が多く、4層の褐色土層から出土しているトレンチもある。

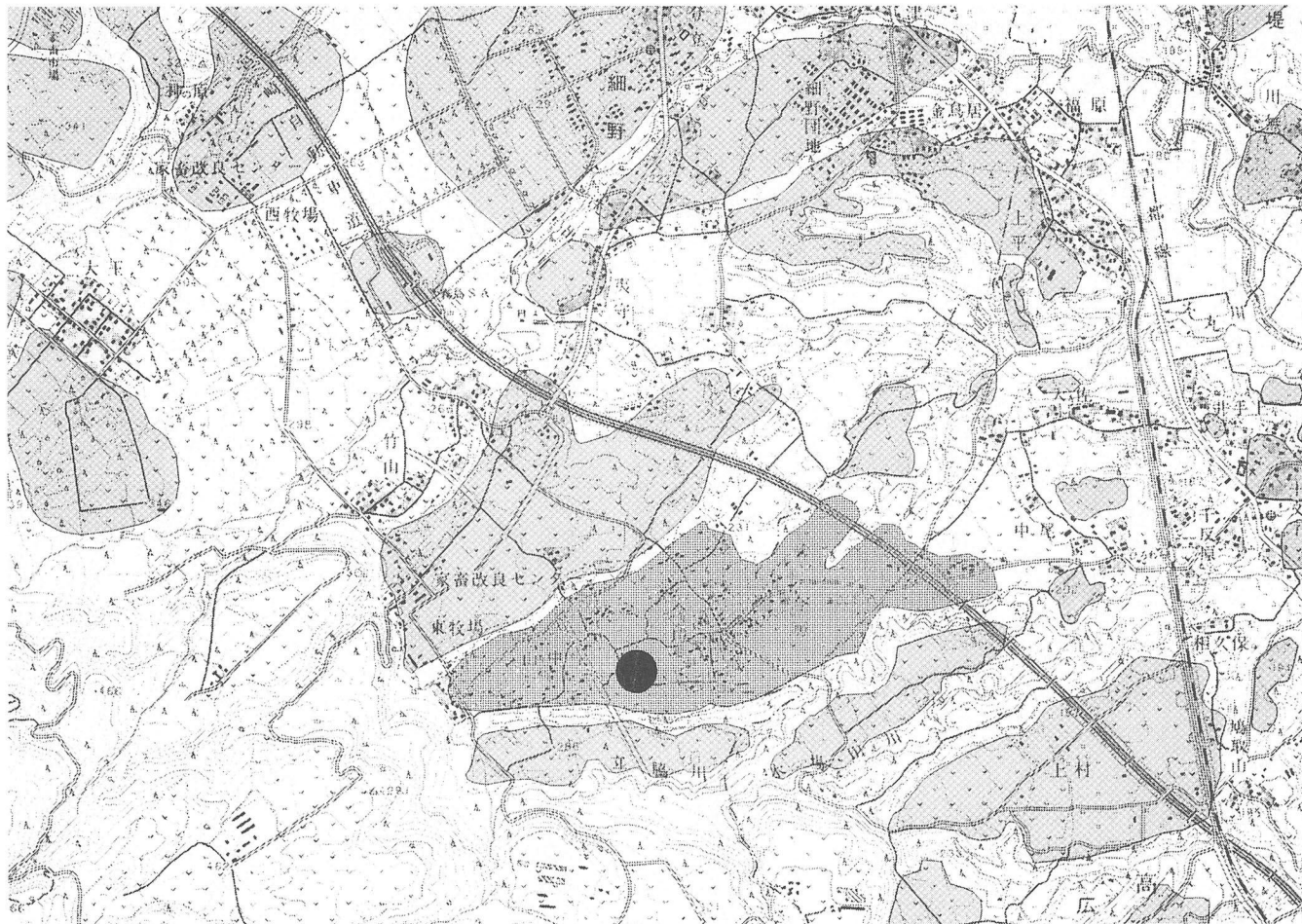


図1 調査地位置図

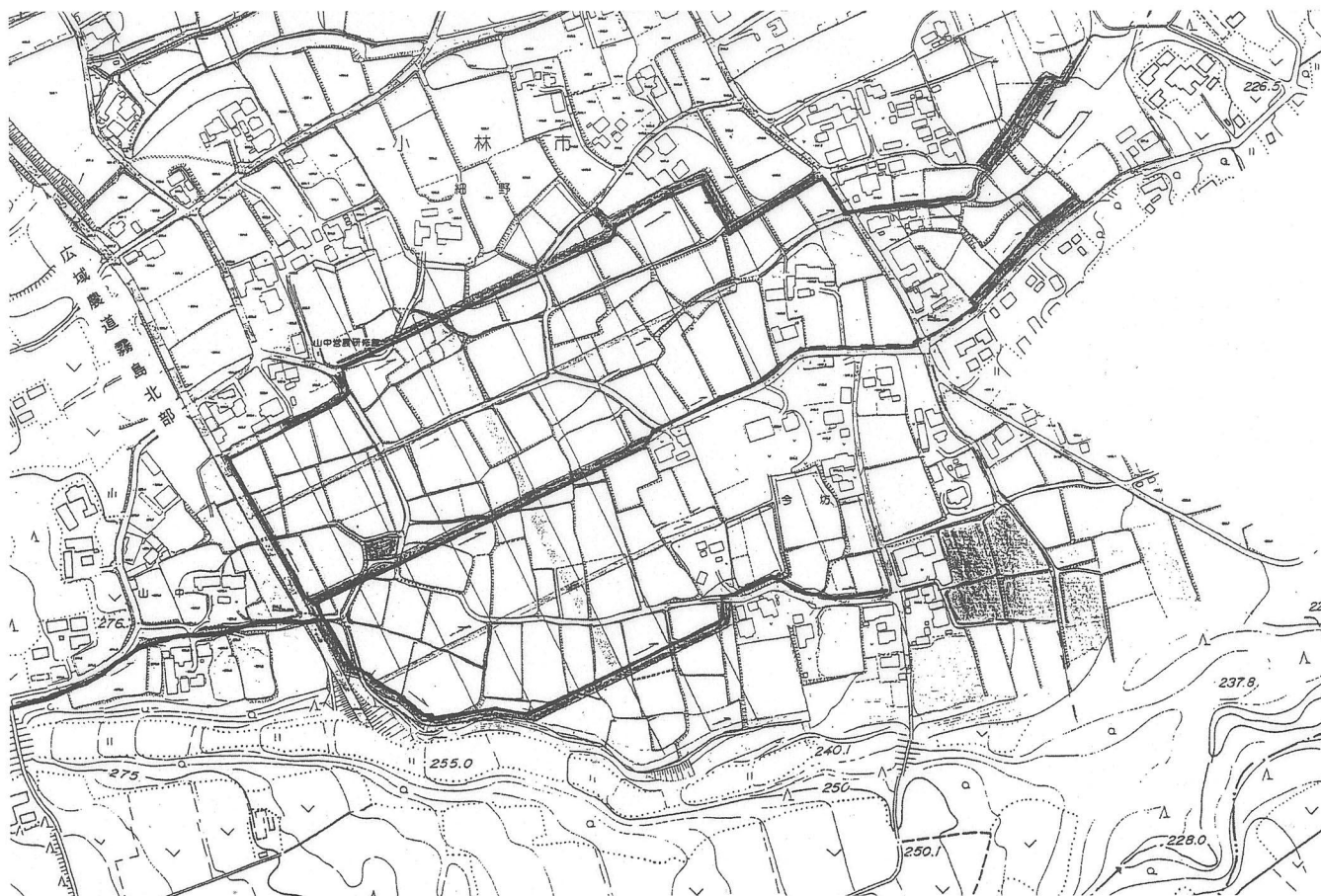


図2 調査地周辺地形図



8 各トレンチの土層堆積状況

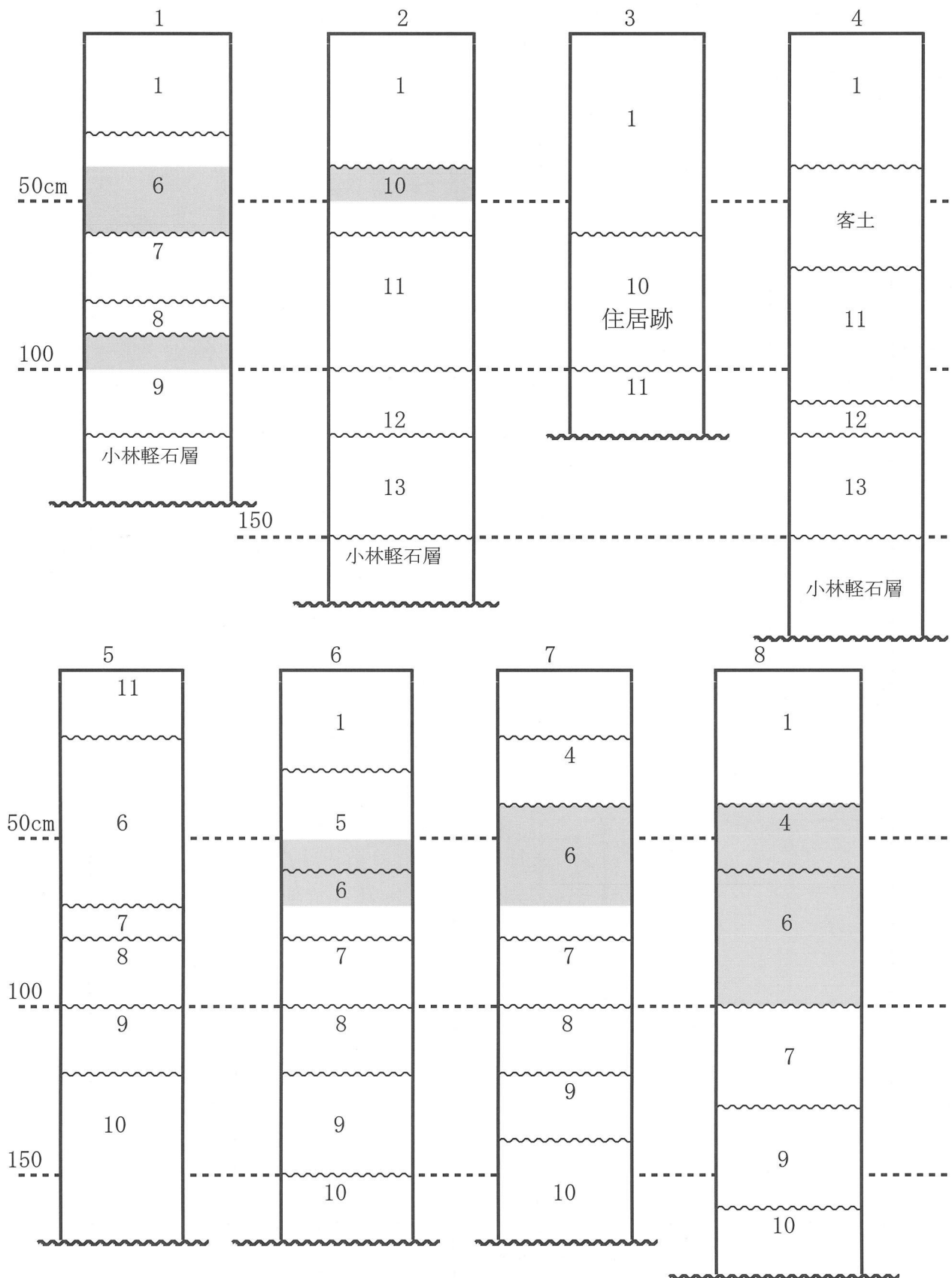


図4 トレンチ土層柱状図

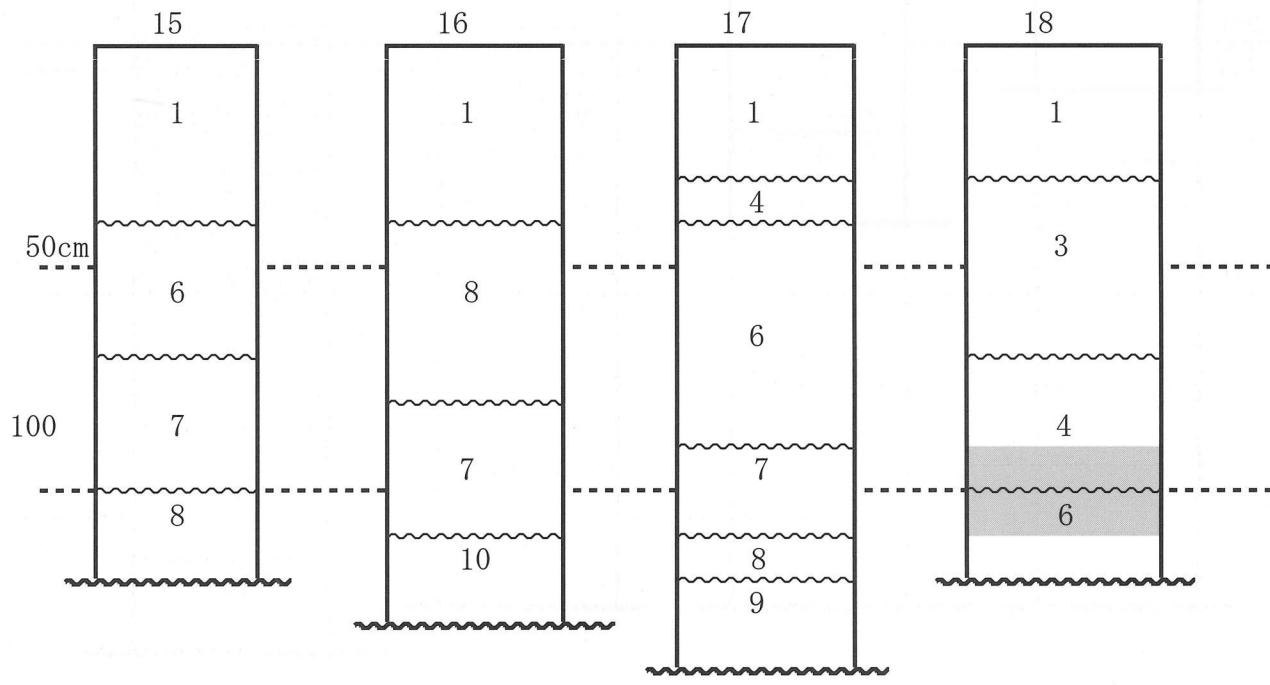
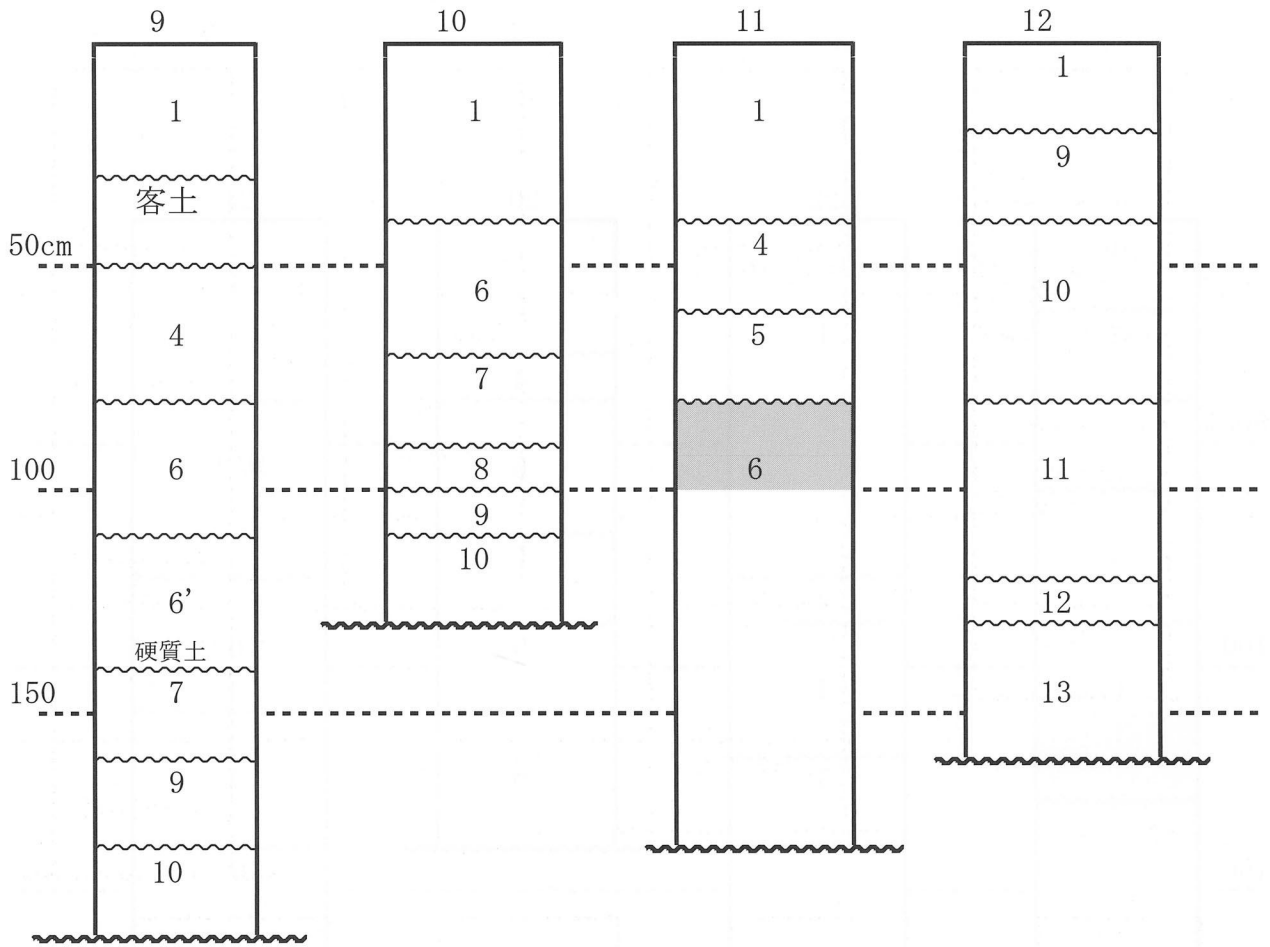


図5 トレンチ土層柱状図



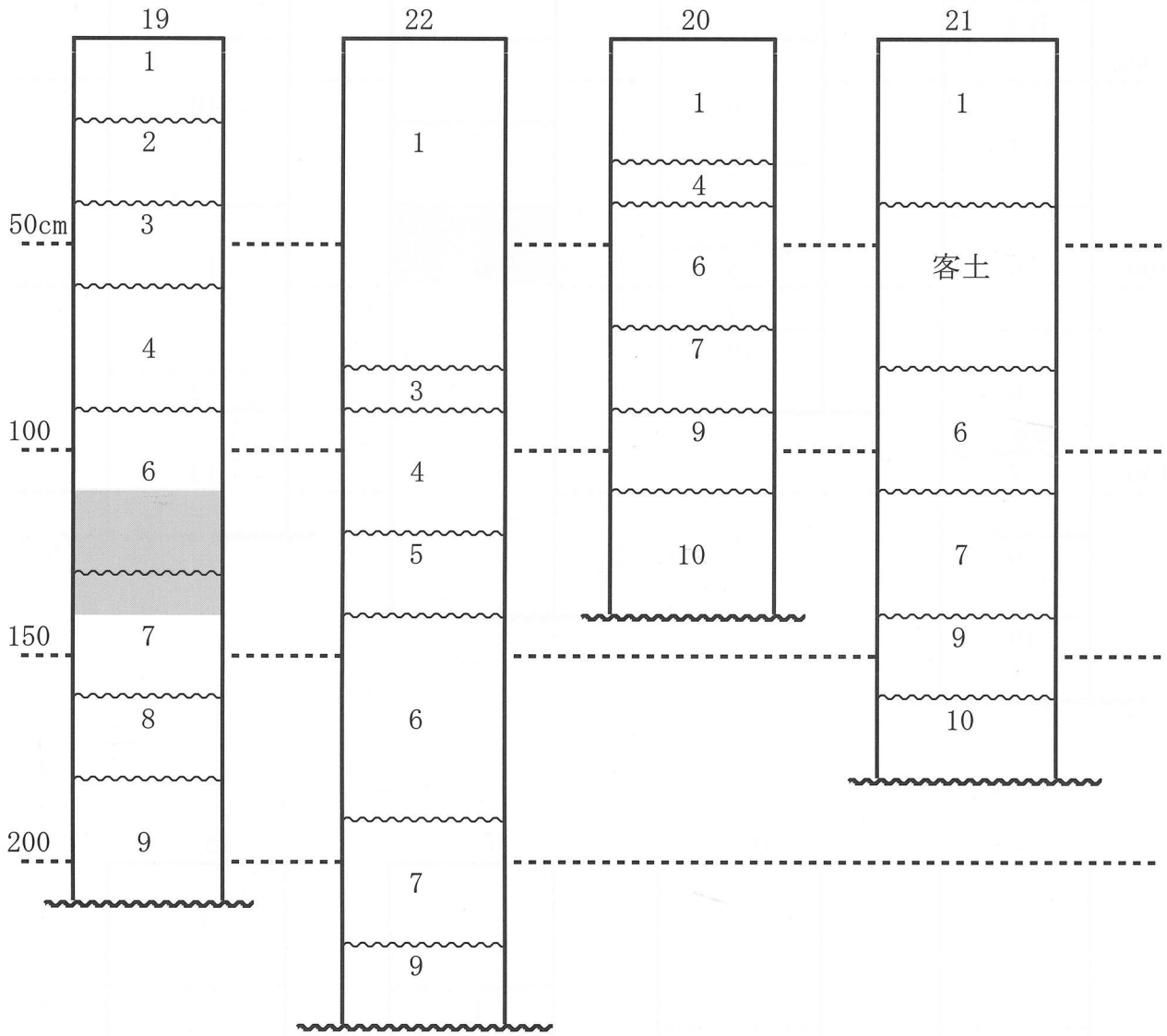


図6 トレンチ土層柱状図

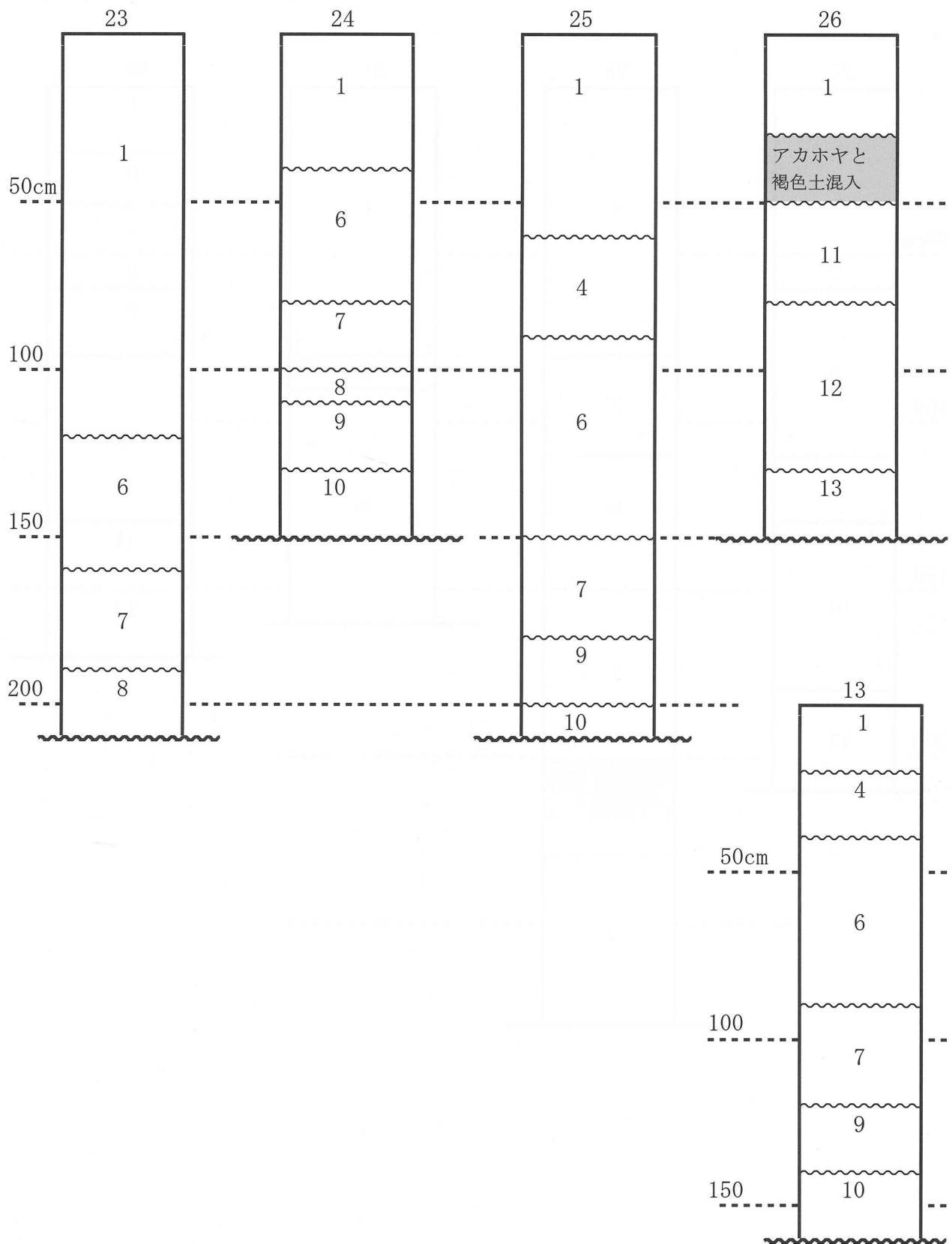


図7 トレンチ土層柱状図

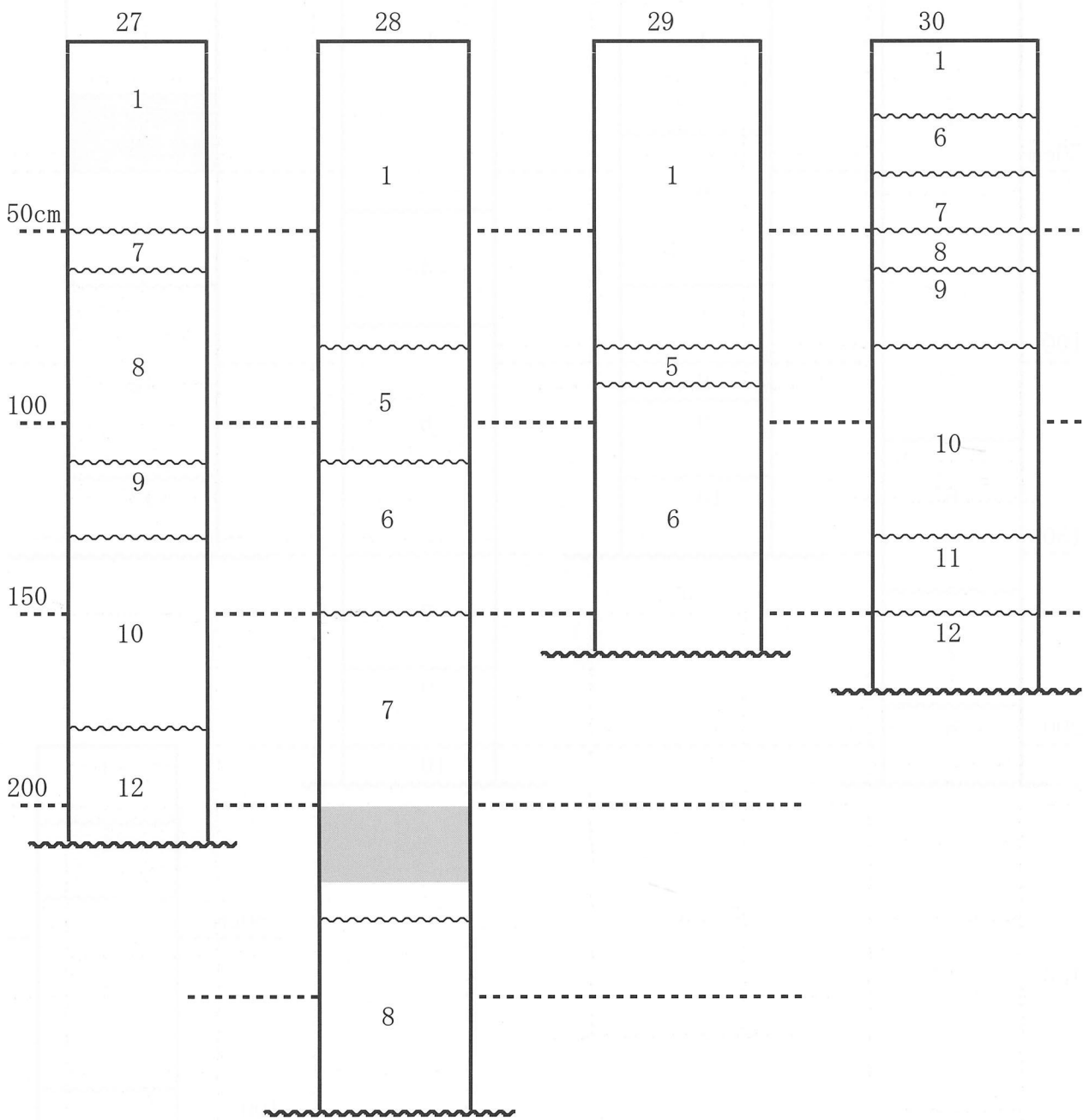


図8 トレンチ土層柱状図

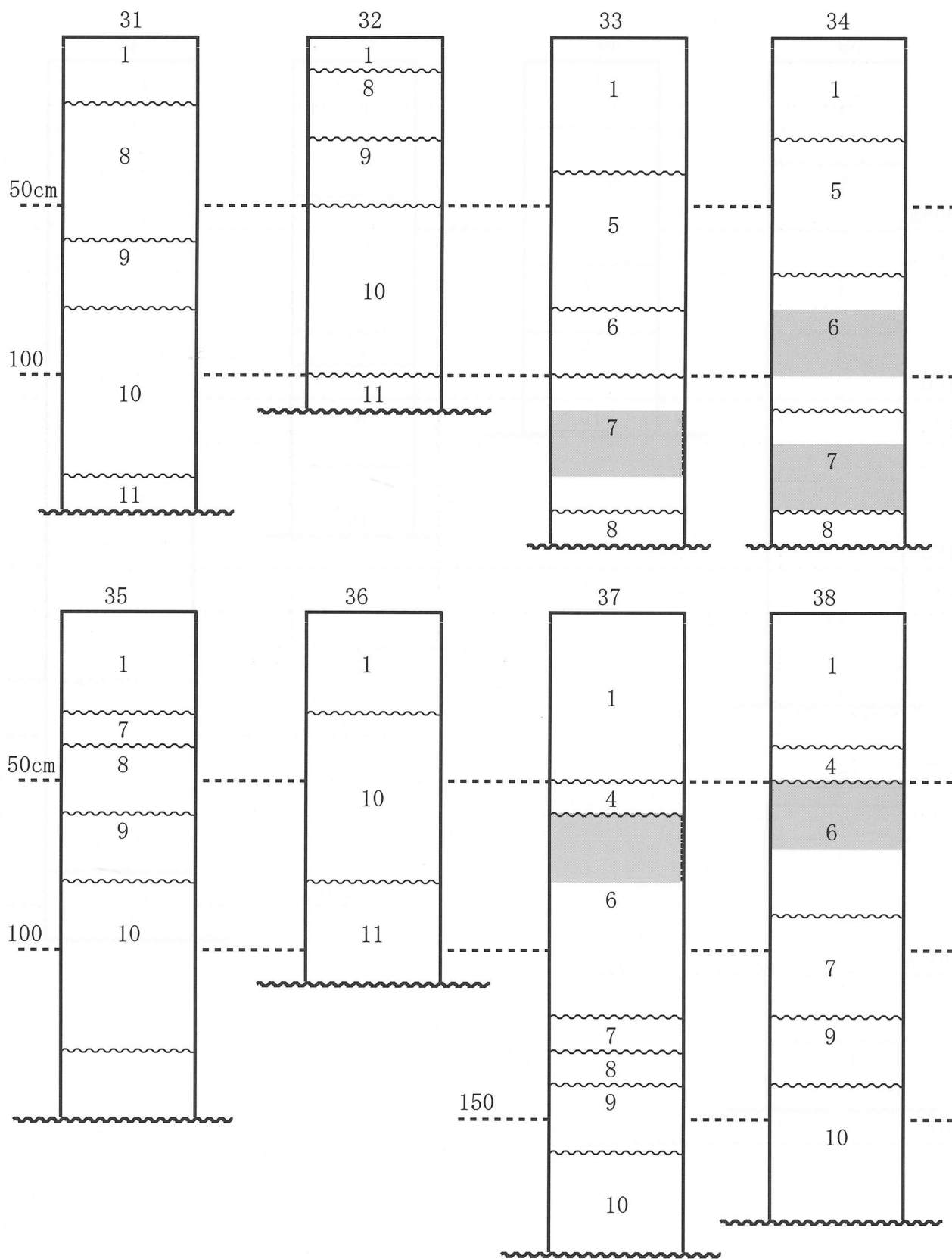


図9 トレンチ土層柱状図

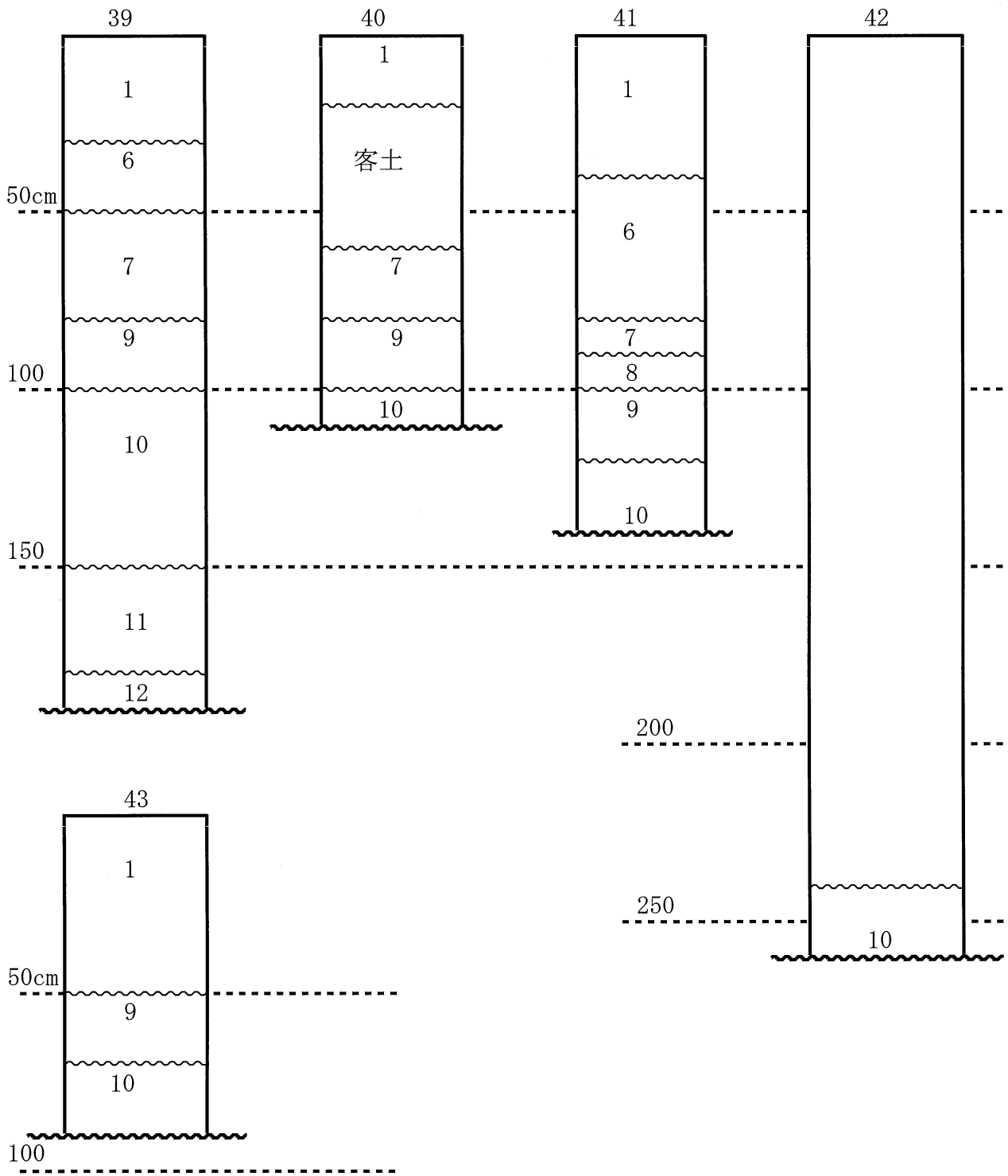


図10 トレンチ土層柱状図

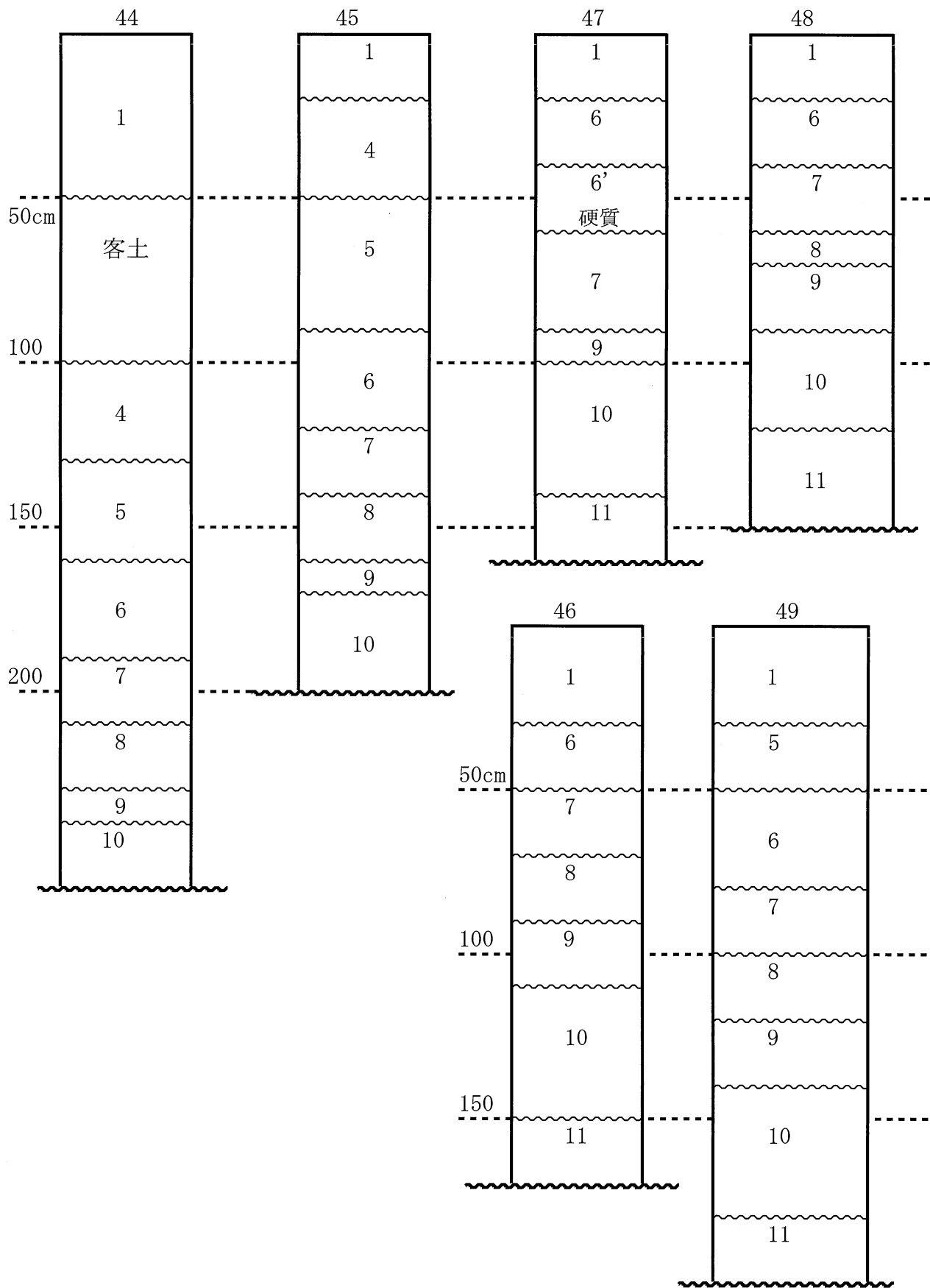


図11 トレンチ土層柱状図

### 3. 王子原遺跡

王子原遺跡は、都城市安久町及び梅北町に所在する。県営畑地帯総合整備事業に伴い、県北諸県農林振興局と遺跡の取扱いについて協議を実施し、遺跡の分布と包含層までの深さを確認するために、確認調査を実施することになった。

確認調査は、平成14年11月13日から15日までの間で実施した。

基本土層は以下のとおりである。

#### (1) 北団地

- 1～表土
- 2～褐灰色土
- 3～黒色土・白ボラ混入
- 4～黒色土
- 5～褐色土・御池ボラ混入
- 6～御池ボラ層
- 7～黄褐色土と褐色土の混入土
- 8～黄橙色土（アカホヤ）
- 9～灰褐色土・堅くしまっている
- 10～褐灰色土・堅くしまっている
- 11～褐色土・1mm前後のレキ混入
- 12～黄褐色土・3～1cm前後のレキ混入

#### (2) 南団地

- 1～表土
- 2～褐灰色土（砂が層状に混入）
- 3～褐灰色土
- 4～褐灰色土・白ボラ混入
- 5～褐灰色土・御池ボラ少量混入
- 6～褐色土・御池ボラ混入
- 7～御池ボラ層
- 8～褐色土・やや粘性がある
- 9～黄橙色土（アカホヤ）
- 10～灰褐色土
- 11～黄灰色土
- 12～黄褐色土
- 13～褐色土
- 14～黄灰色シルト層

確認調査は、北団地16本、南団地11本の計27本のトレンチを設定した。

北団地は、1・3・6トレンチで遺物の出土があり、8から10・13トレンチで溝状の遺構が確認できた。遺物の出土層位は、4の黒色土層と5の御池ボラ混入の褐色土層である。溝状遺構は、表土下で検出されるもので、埋土は黒色土層に御池ボラが少量混入する土である。

南団地は、4・5・9・10-cトレンチで遺物が検出できた。遺構はピット状のものを確認している。遺物は、縄文後期、弥生、白磁等も出土している。9と10-cトレンチについては、小規模な谷が入り込んでいると考えられ、遺跡の中心としては4・5トレンチを中心とした部分が想定される。

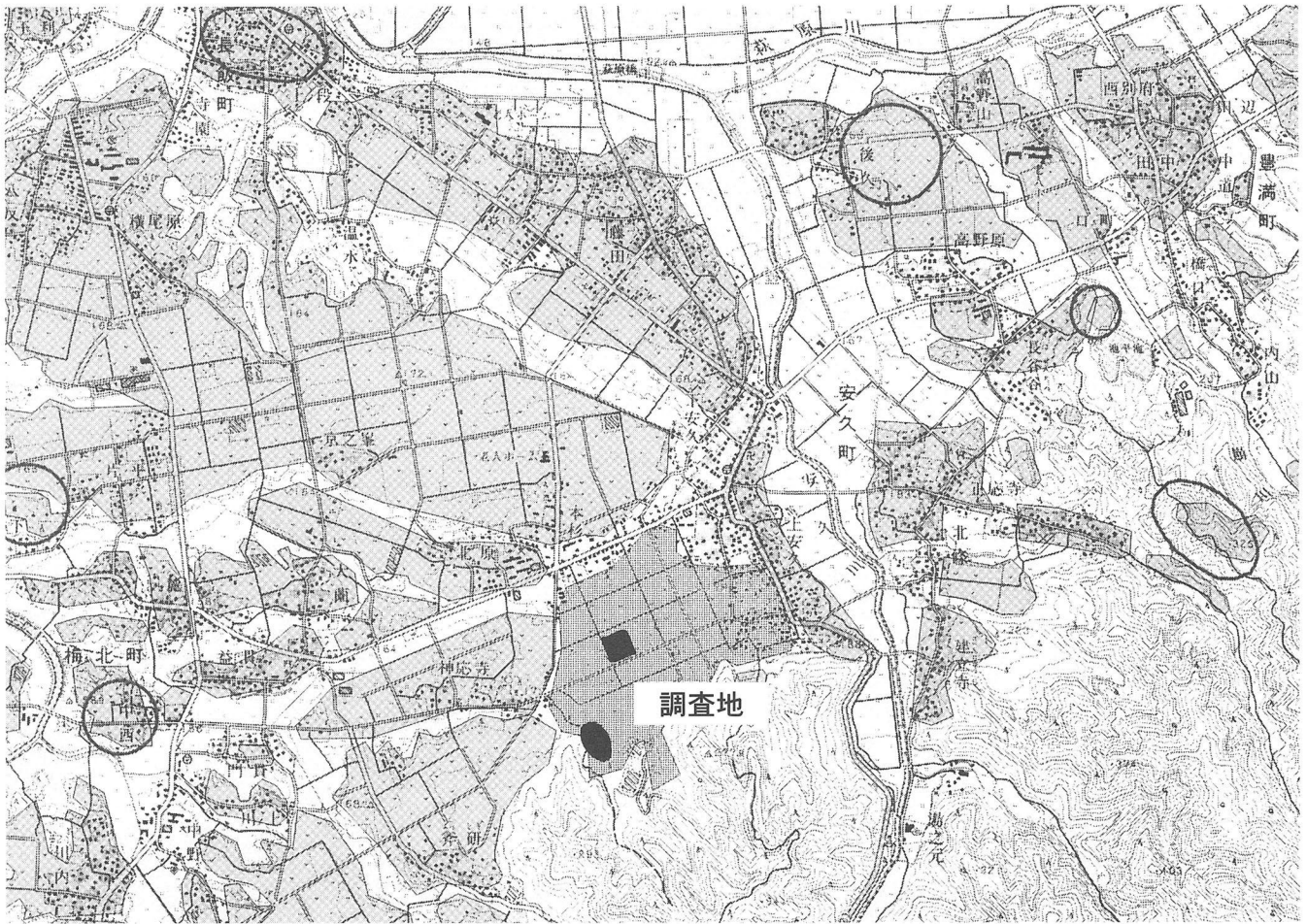


図12 調査地位置図

9 土層堆積状況  
(1)北団地

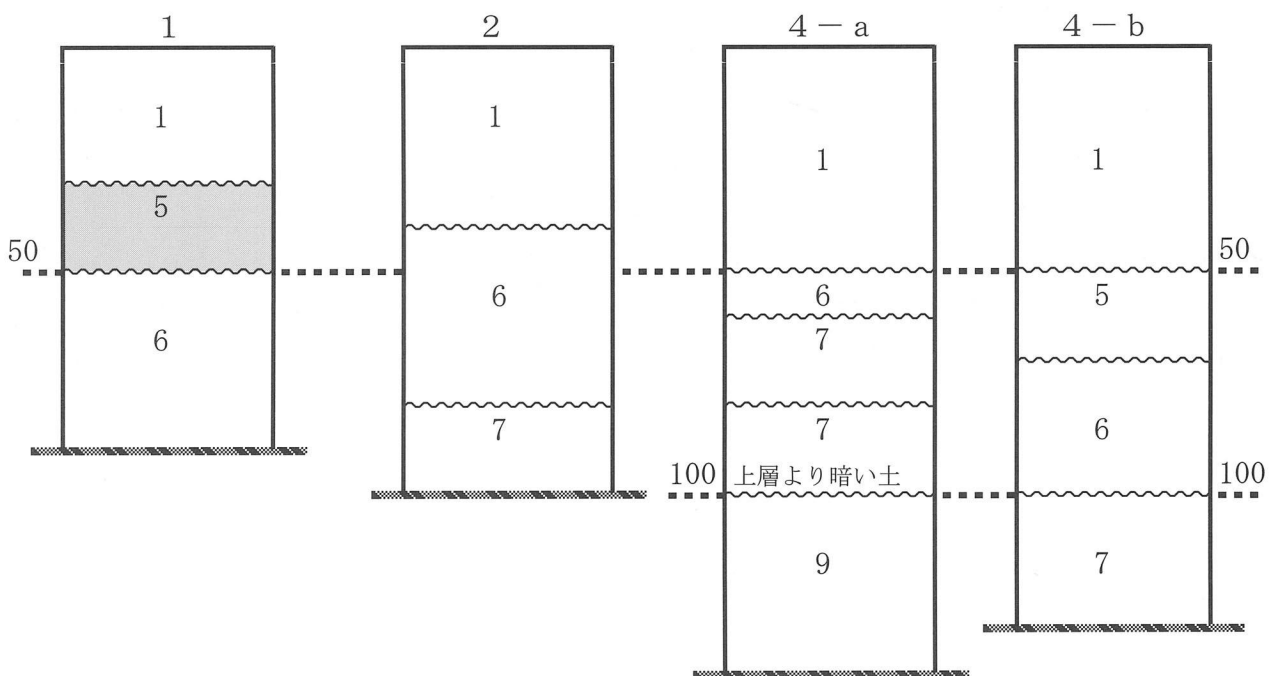


図13 トレンチ土層柱状図



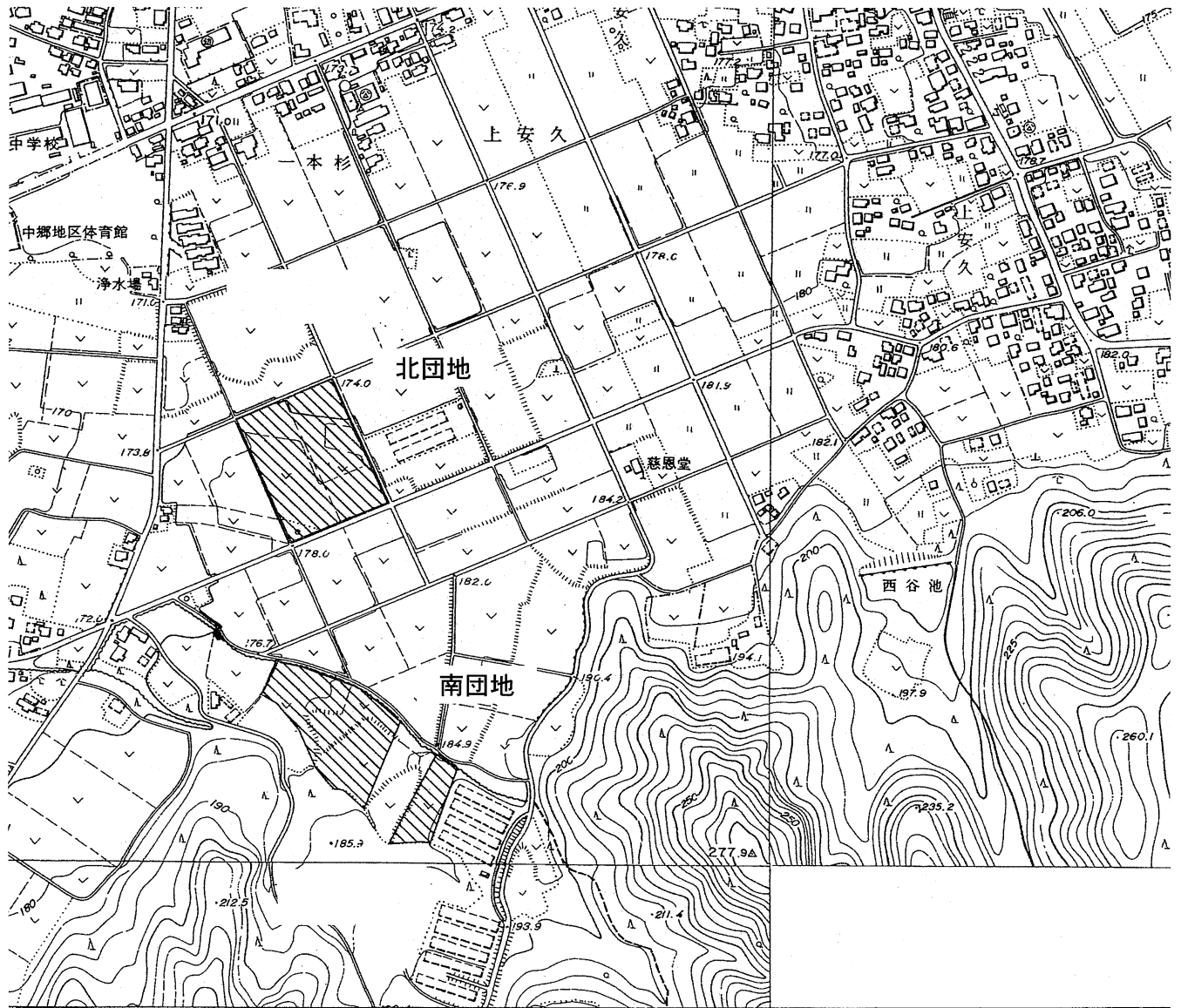


図14 調査対象地

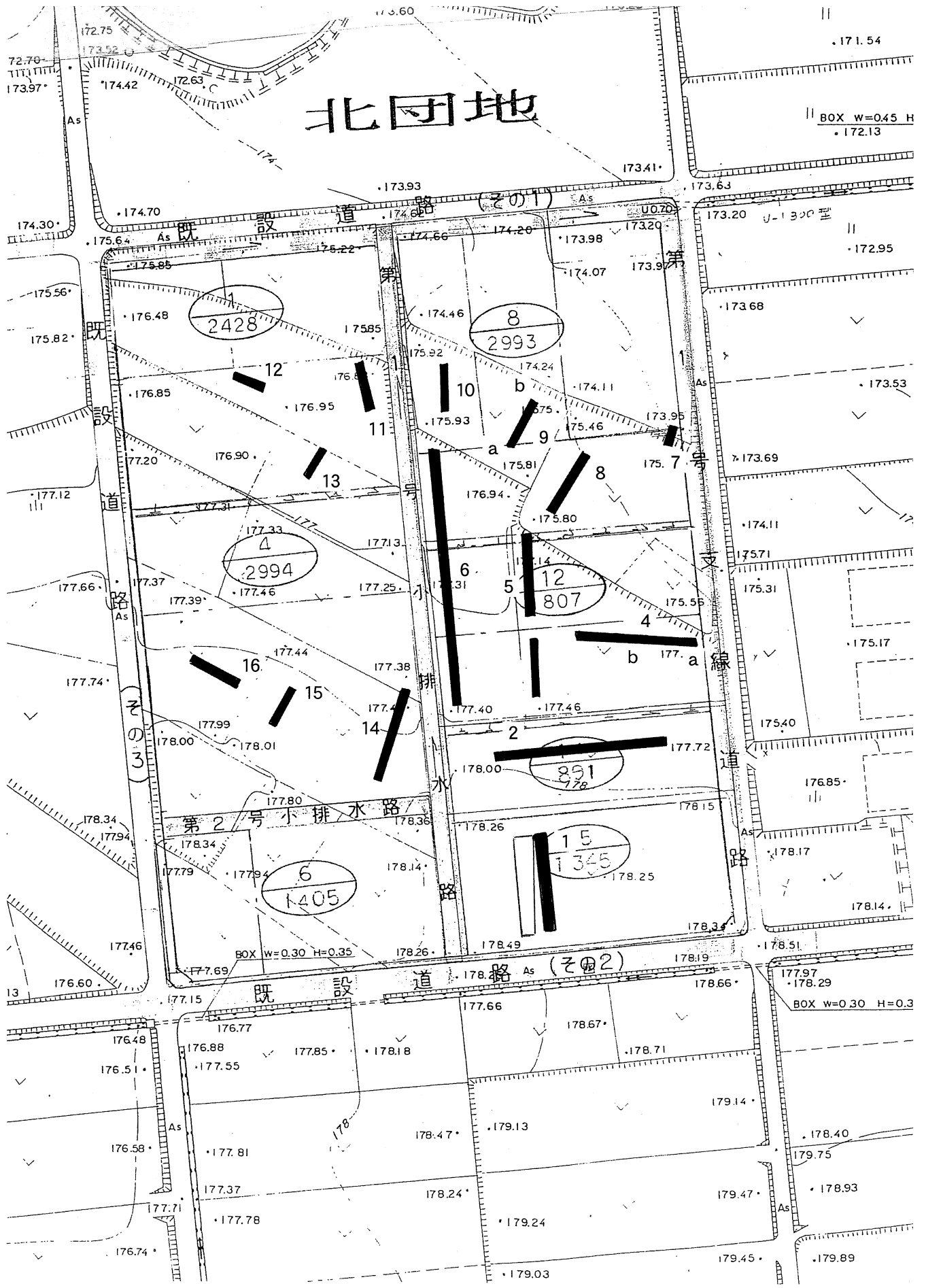


図15 トレンチ配置図

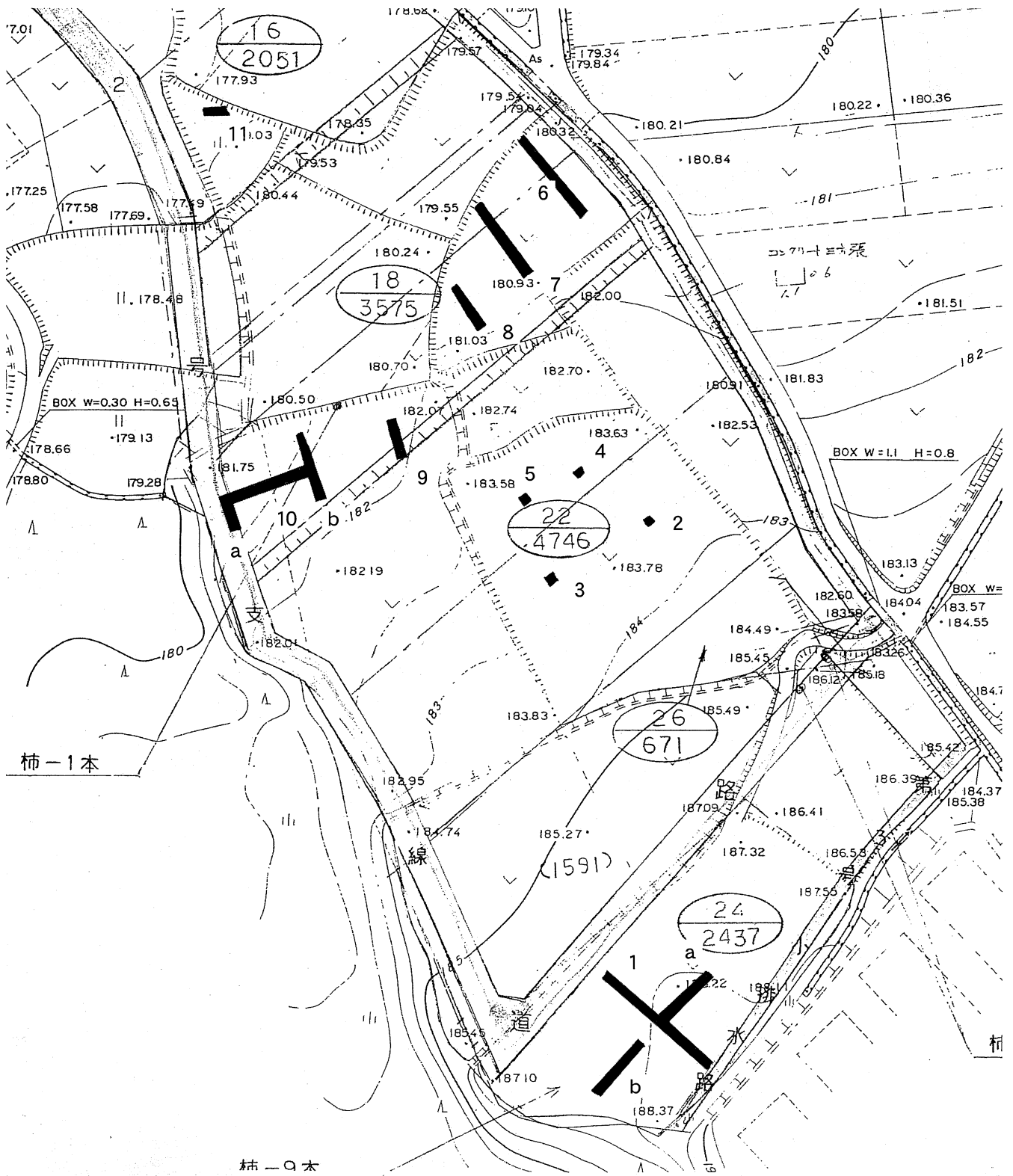


図16 トレンチ配置図

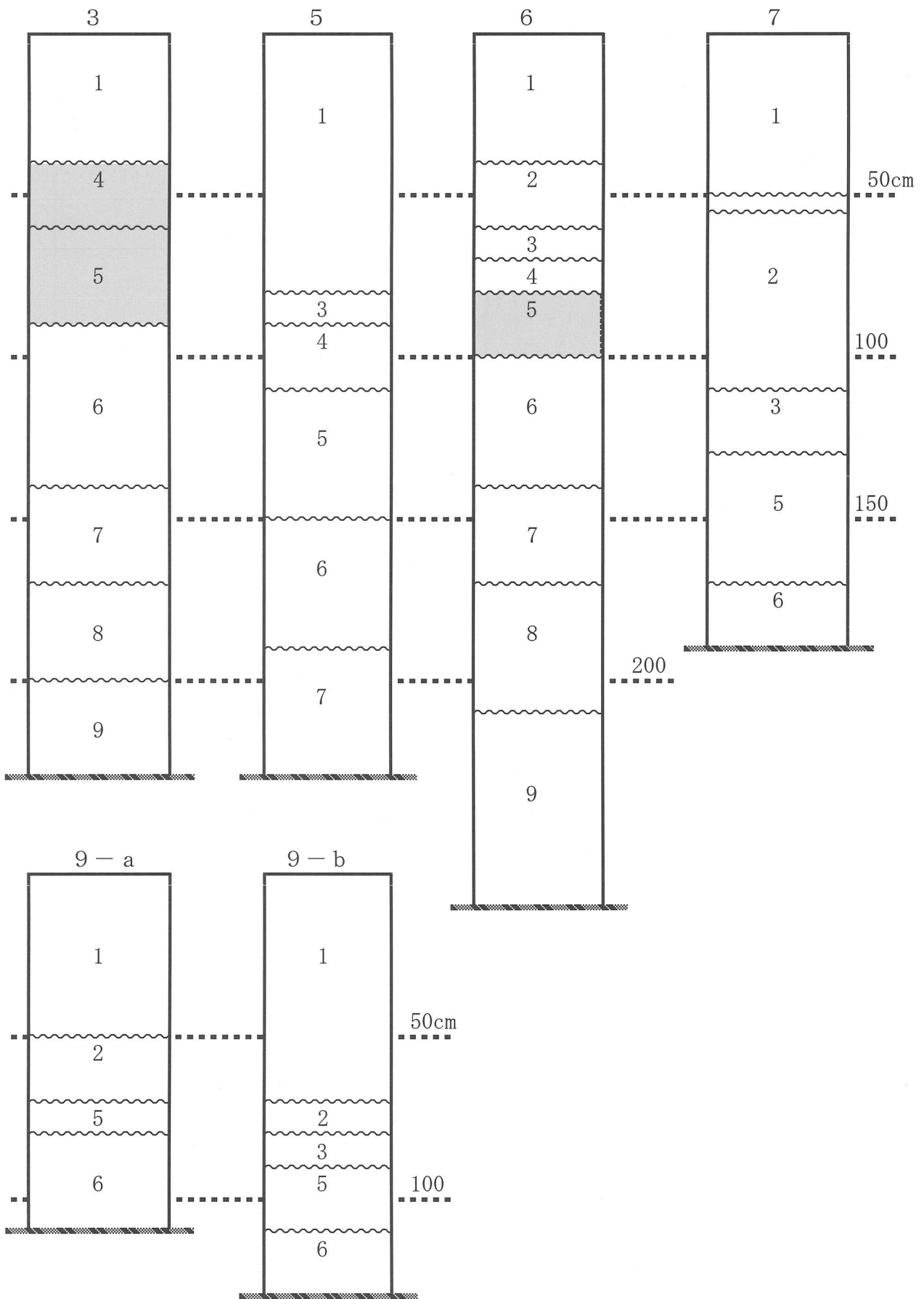


図17 トレンチ土層柱状図

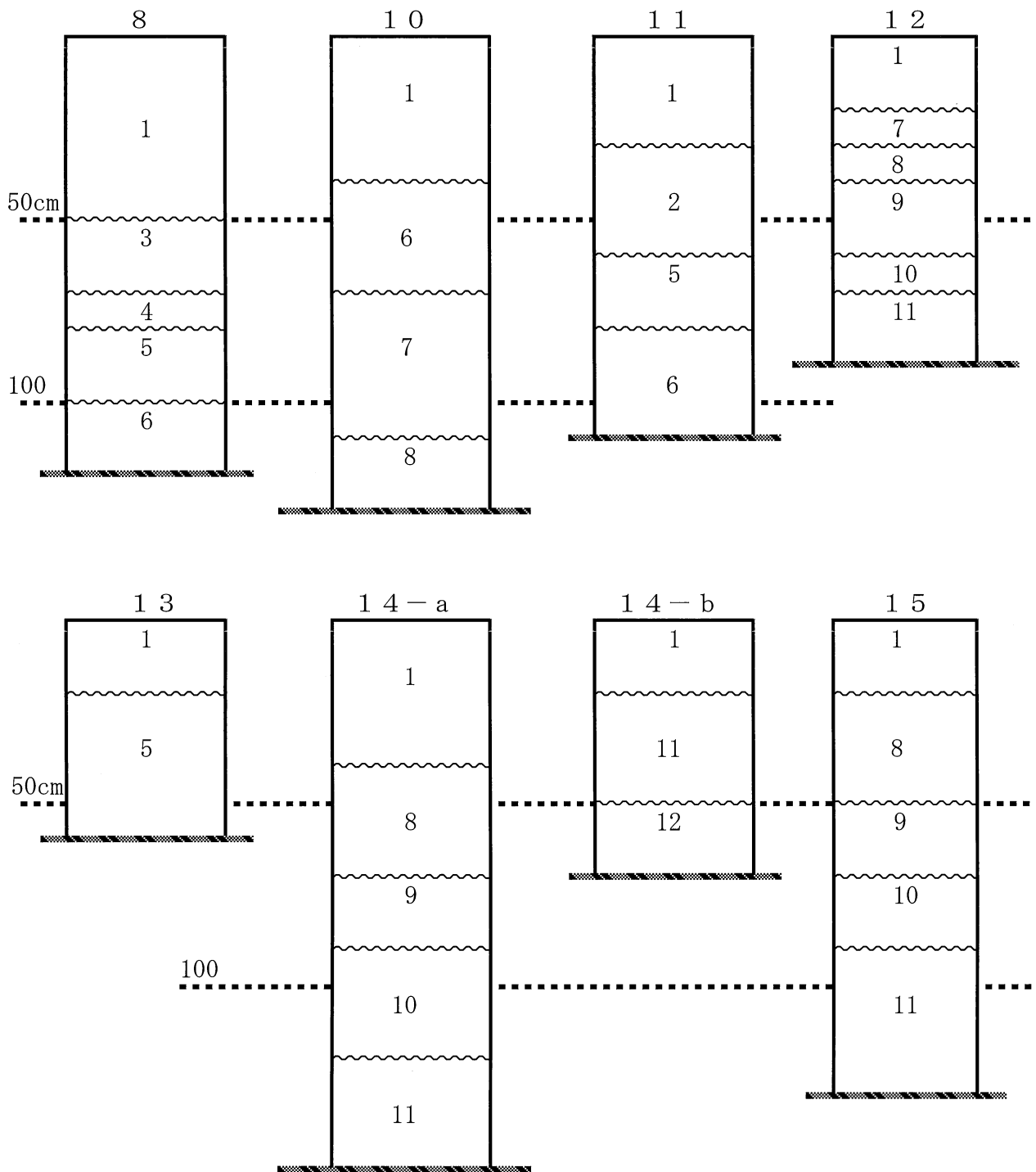


図18 トレンチ土層柱状図

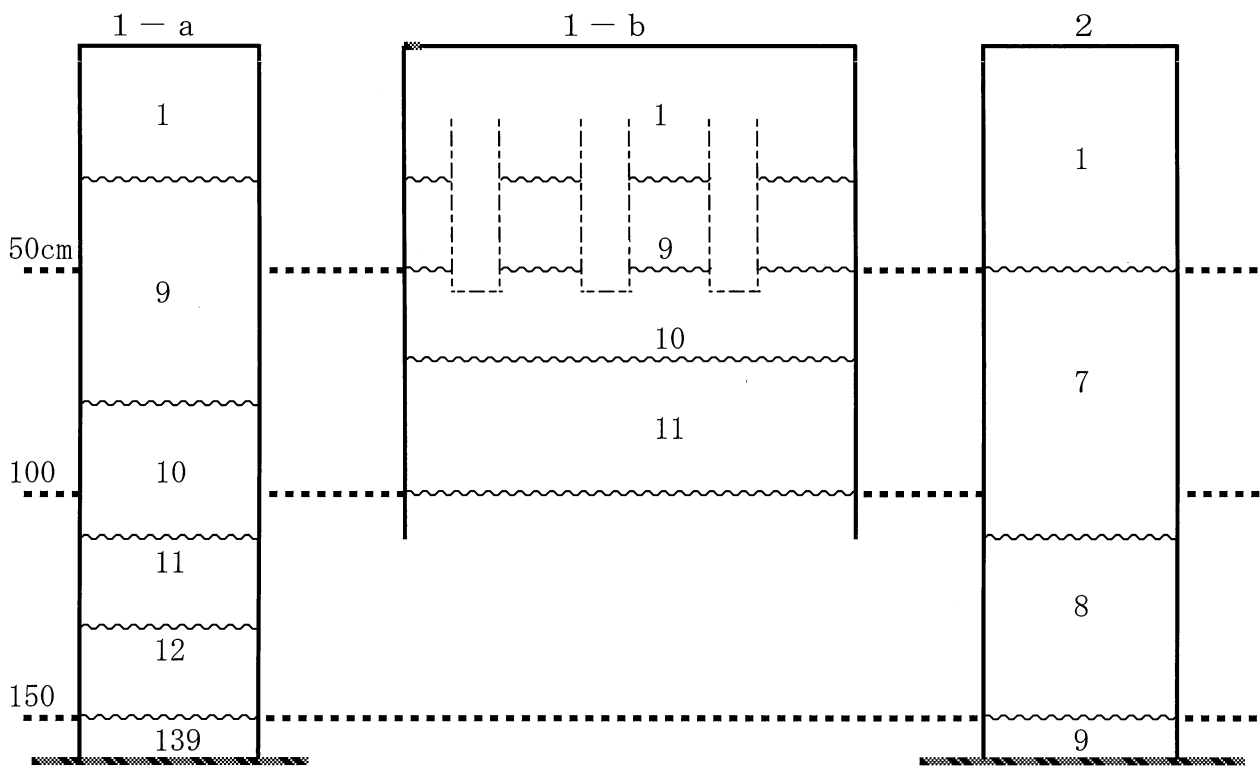
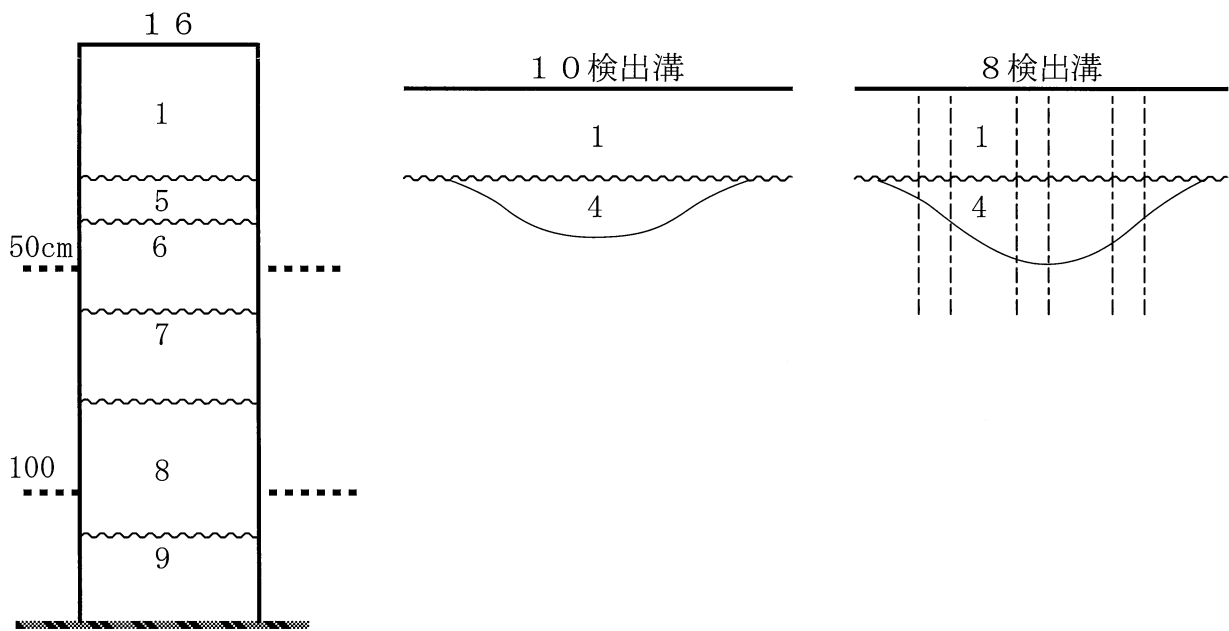


図19 トレンチ土層柱状図

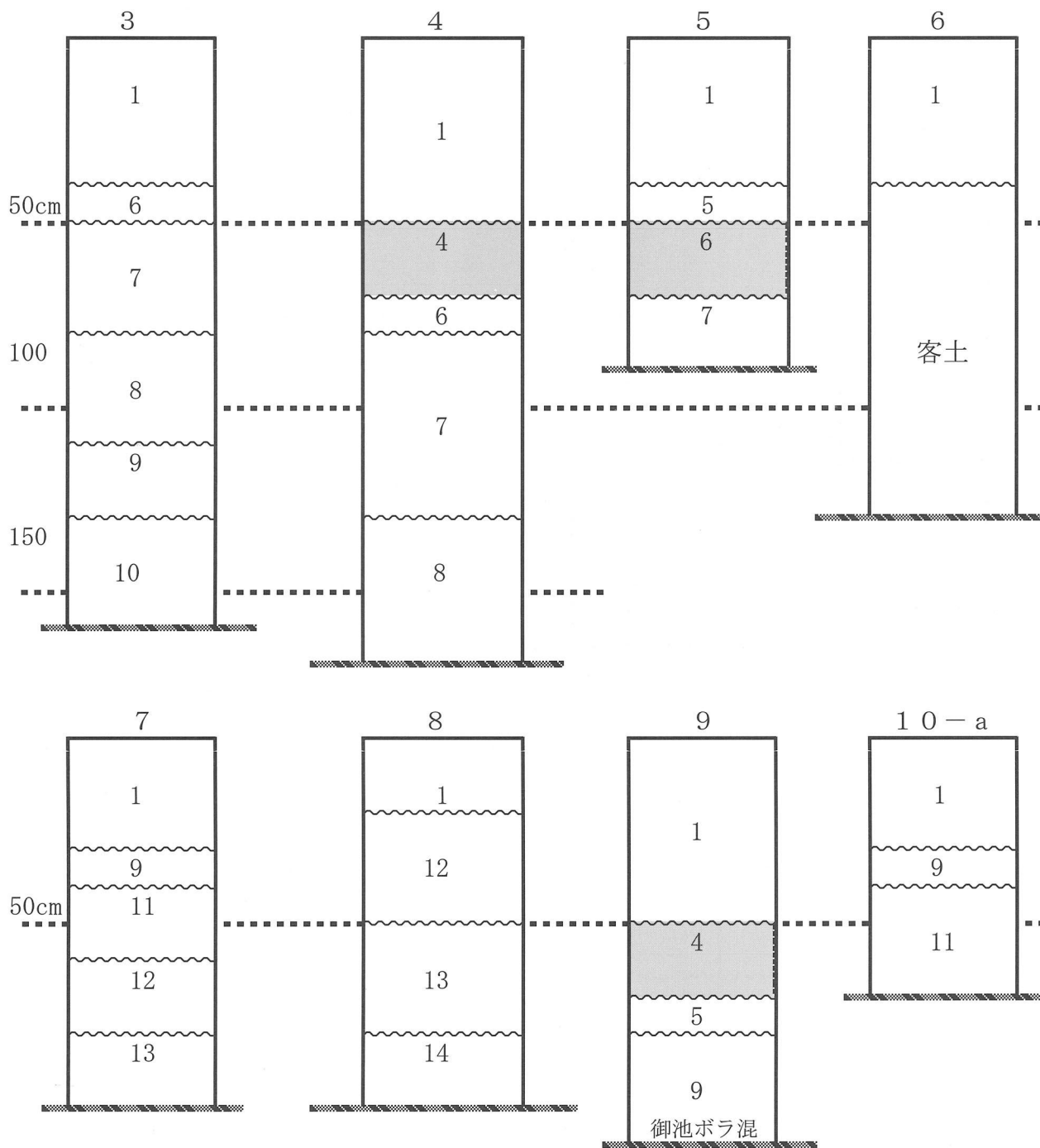


図20 トレンチ土層柱状図

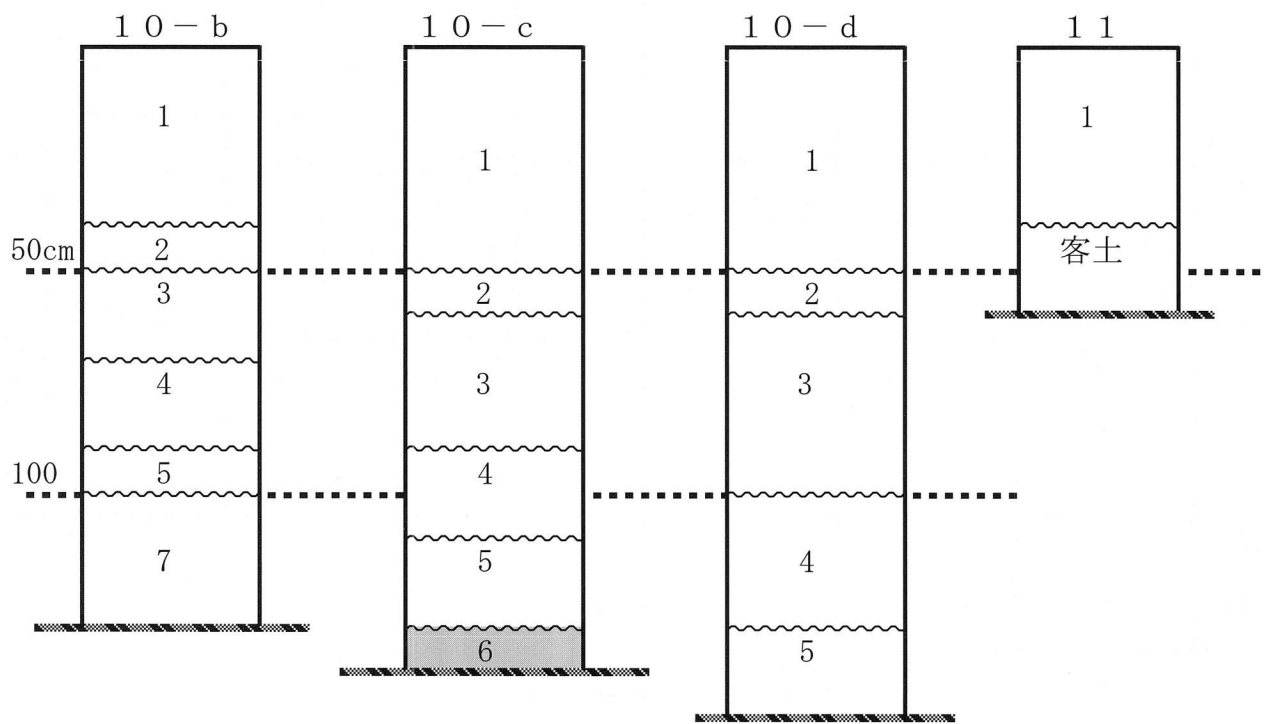


図21 トレンチ土層柱状図



## 4. 横市中原遺跡

緑資源公団が実施している農用地総合整備事業は、平成5年度に事業実施に伴う埋蔵文化財包蔵地の照会から協議が始まった。その後、平成13年度までに13遺跡の調査を実施している。平成14年度は、3箇所の確認調査対象地があり、横市中原遺跡を8月に、平原遺跡を9月、梅北宮の前遺跡を12月に実施した。この内確認調査を実施して、遺跡の所在が確認された横市中原遺跡を報告する。

横市中原遺跡は、都城市横市町字母智丘原・平原に所在する。確認調査は平成14年8月21日から23日にまでの間で実施した。調査は、19本のトレンチを設定し、内12本のトレンチの掘り下げを行った。

1～6トレンチでは、遺物の出土はなかったが、御池ボラ層面で溝及びピット状の遺構が確認されている。北側の台地縁辺部に設定した13から19までのトレンチでは、ピット状の遺構を確認し、土師器等の遺物も出土している。また18トレンチでは、白ボラの堆積が見られる。

基本土層は以下のとおりである。

- |      |               |       |             |
|------|---------------|-------|-------------|
| I層   | 現耕作土          | VI層   | 黒色土に御池ボラ混入  |
| II層  | 黒色土に白ボラが混入    | VII層  | 御池ボラ層       |
| III層 | 白ボラ           | VIII層 | 黒色土         |
| IV層  | 黒色土に御池ボラが少量混入 | IX層   | 橙色土と褐色土の混入土 |
| V層   | 褐色土に御池ボラが少量混入 |       |             |

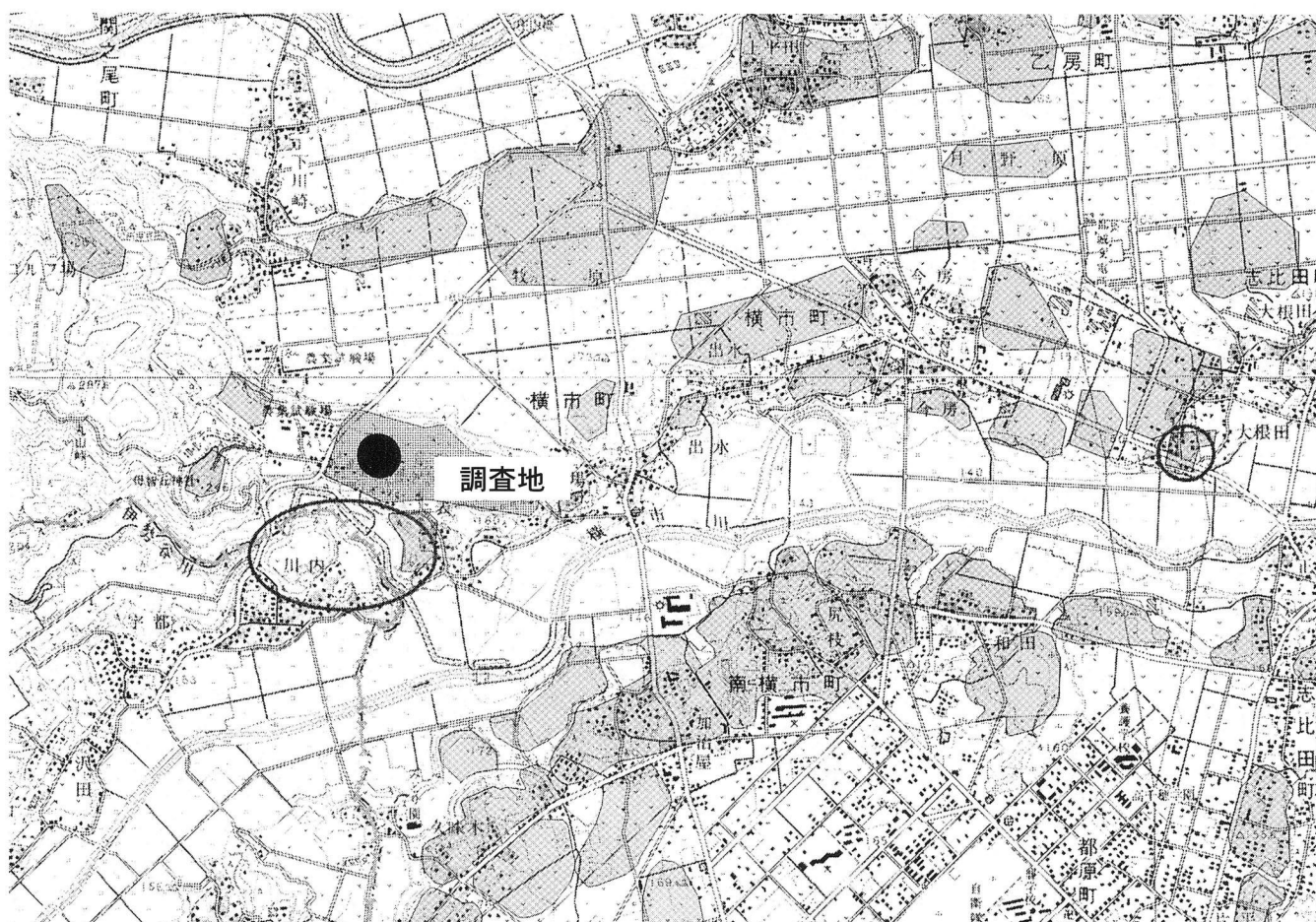


図22 調査地位置図

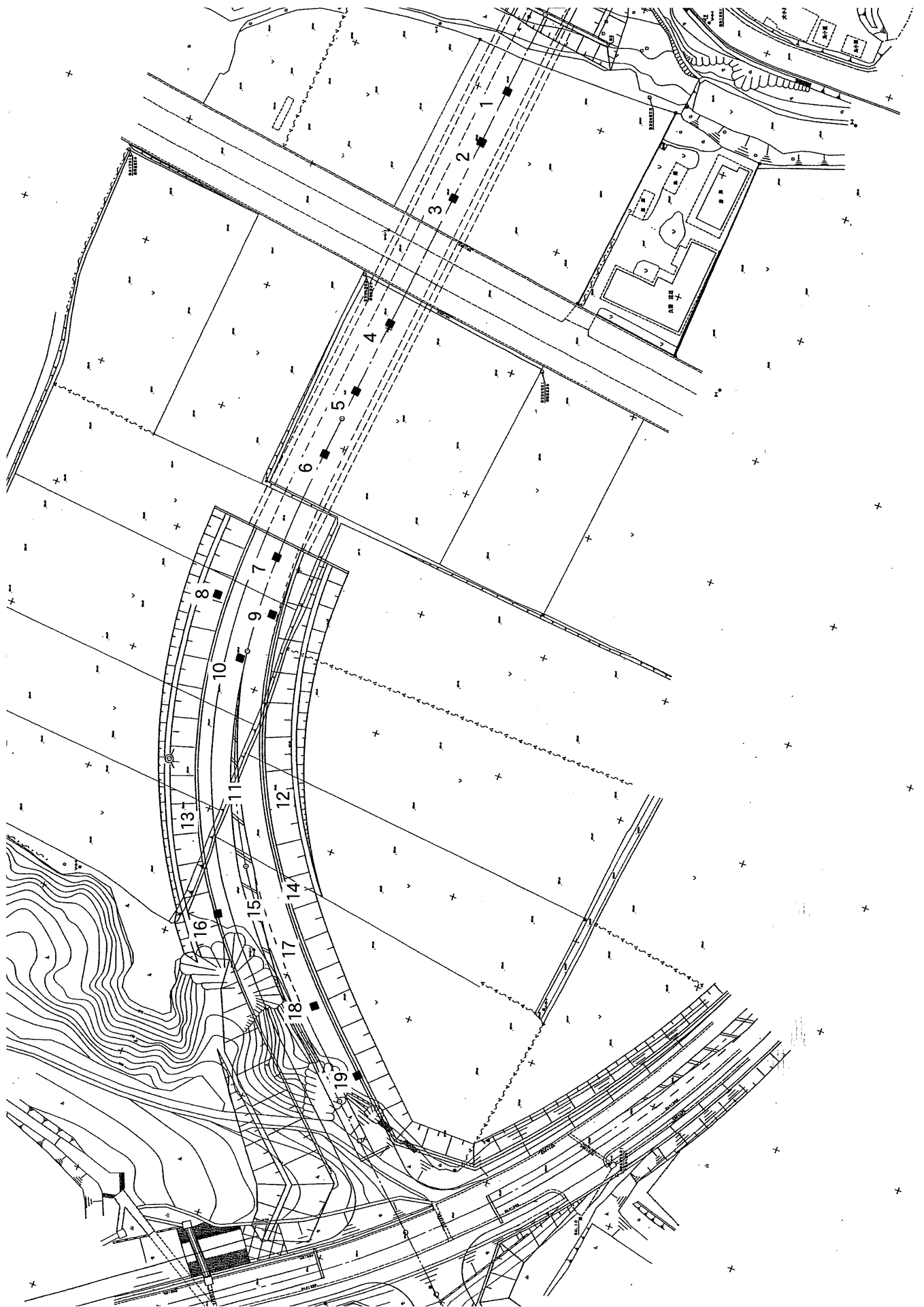


図23 トレンチ配置図

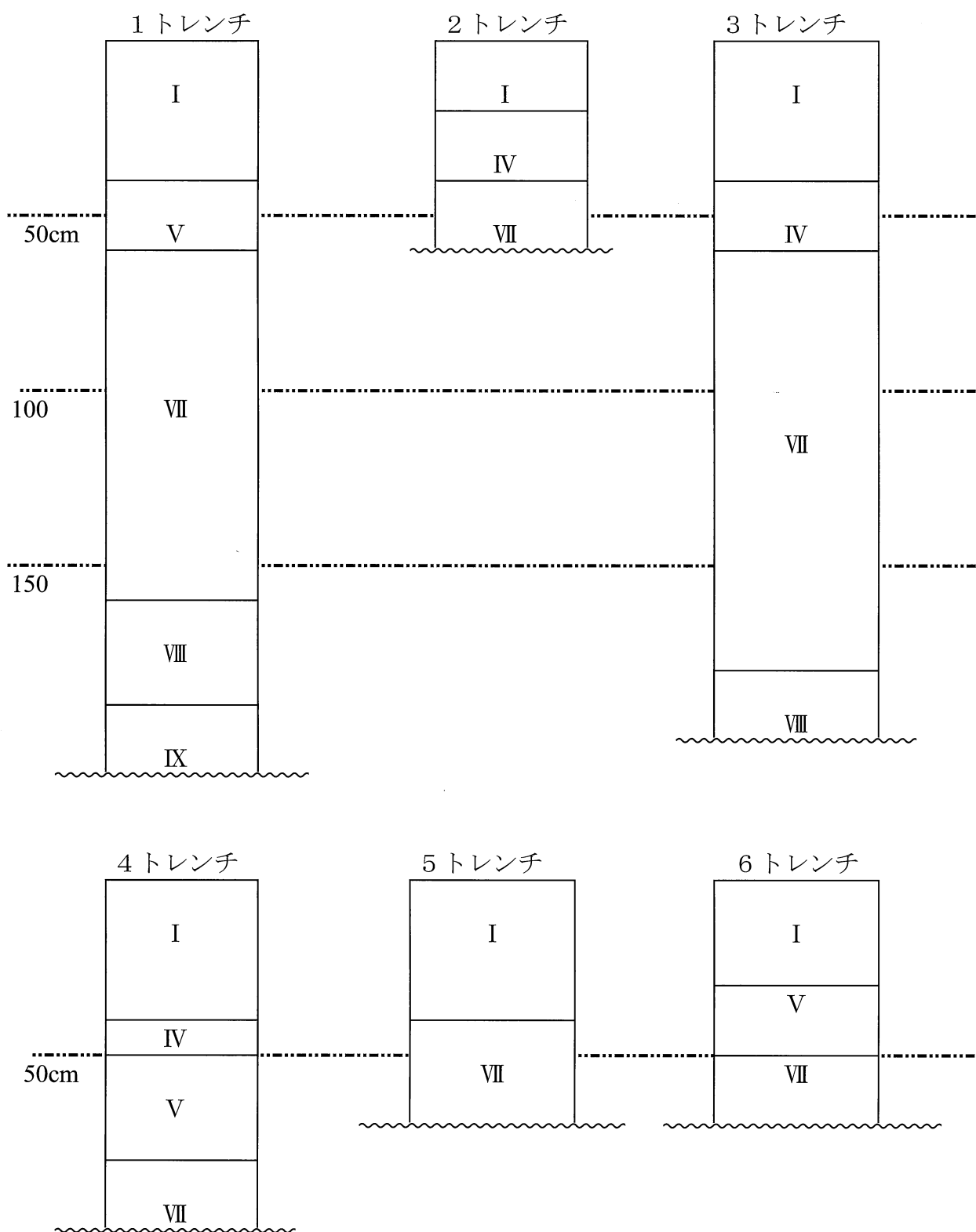


図24 トレンチ土層柱状図

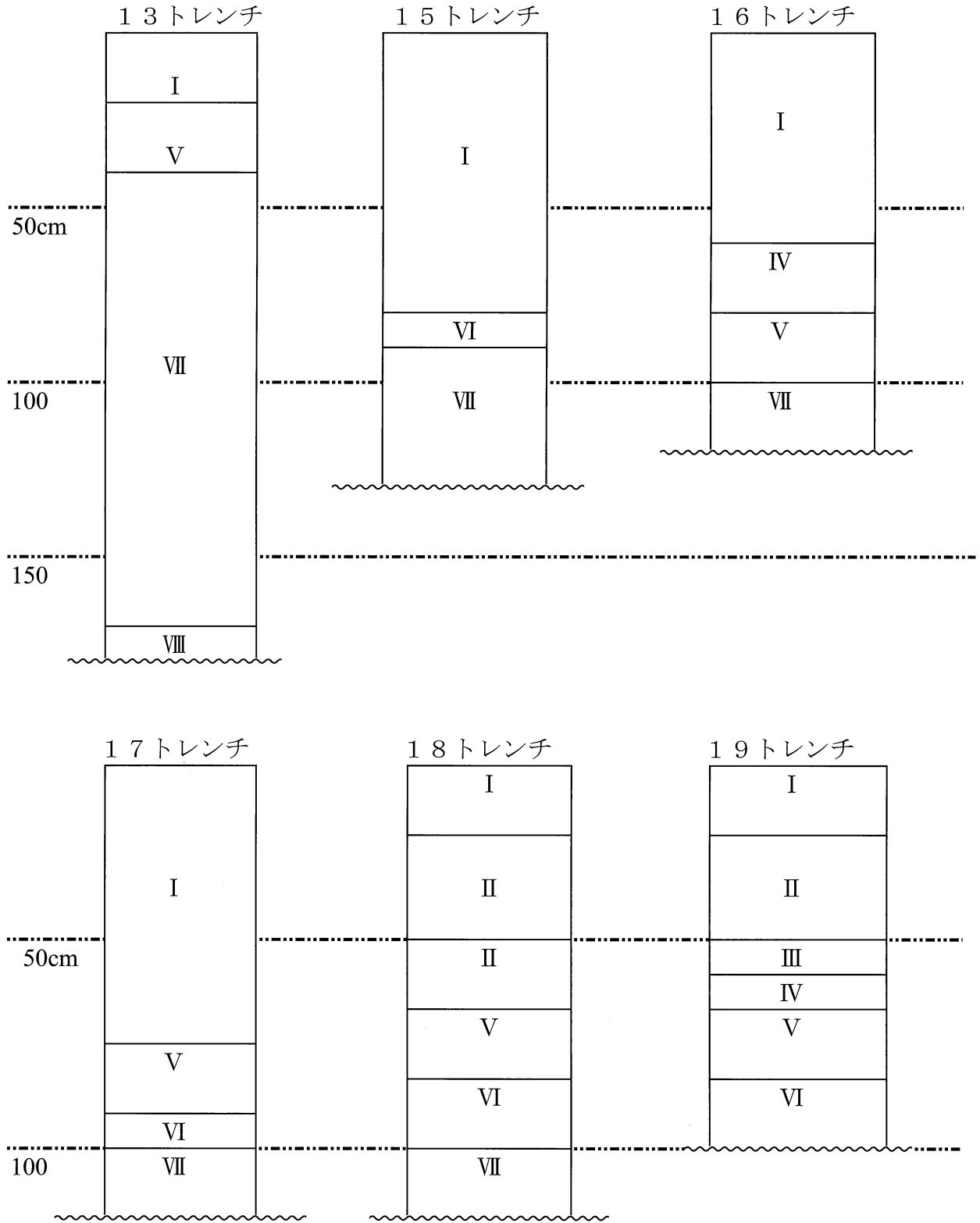


図25 トレンチ土層柱状図

## 5. 草刈田遺跡

草刈田遺跡は、えびの市大字栗下に所在する。本遺跡は、県営ほ場整備事業末永地区の事業実施に伴い、平成14年4月9日から10日にかけて試掘調査を行った。

試掘実施箇所は水田で、市道を挟んで南北方向に24本のトレンチを設定して掘り下げた。現地は、古代の官道が通ると推定される場所で、調査は道路状遺構を想定しながら掘り下げたトレンチもあった。

基本土層は、以下のとおりである。

- I 黄橙色土と灰色土の混入土（黄橙色土は凝集堆積している部分もある。）
- II 褐灰色土
- III 灰褐色土
- IV 黄灰色土（黄橙色粒と白色粒が少量混入）
- V 褐色土
- VI 黄灰色土（砂質）

1から9のトレンチでは、遺構や遺物等の検出はなく、市道を挟んで北側の16・17・20・21・23・24トレンチから弥生、中世等の遺物が確認できた。また、20トレンチでは、溝状遺構が確認できた。遺構は、IV層の黄灰色土に掘り込まれ、埋土はIII層の灰褐色土が入り込んでいる。

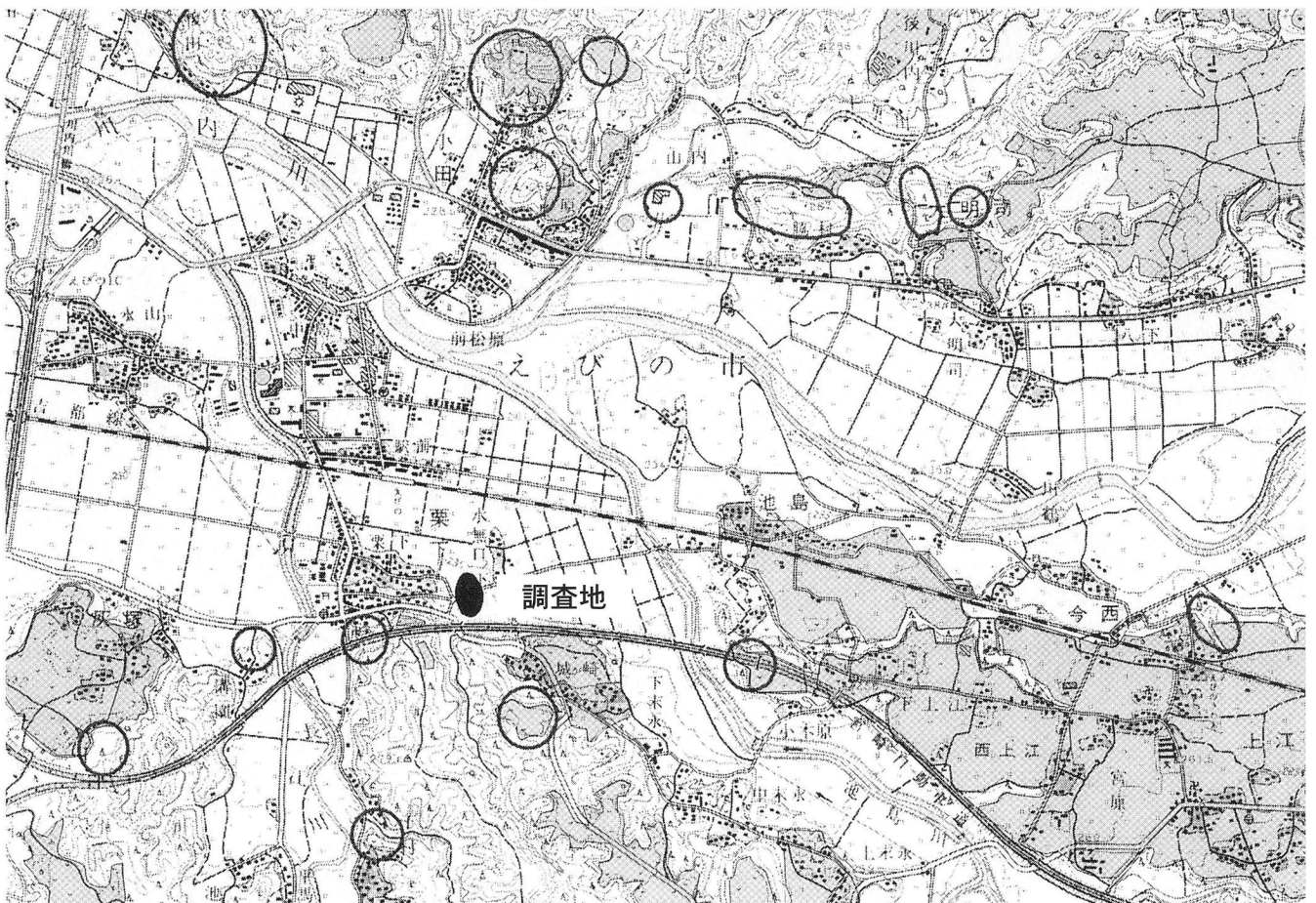


図26 調査地位置図



図27 トレンチ配置図

県営担い手育成事業末永地区試掘調査結果報告

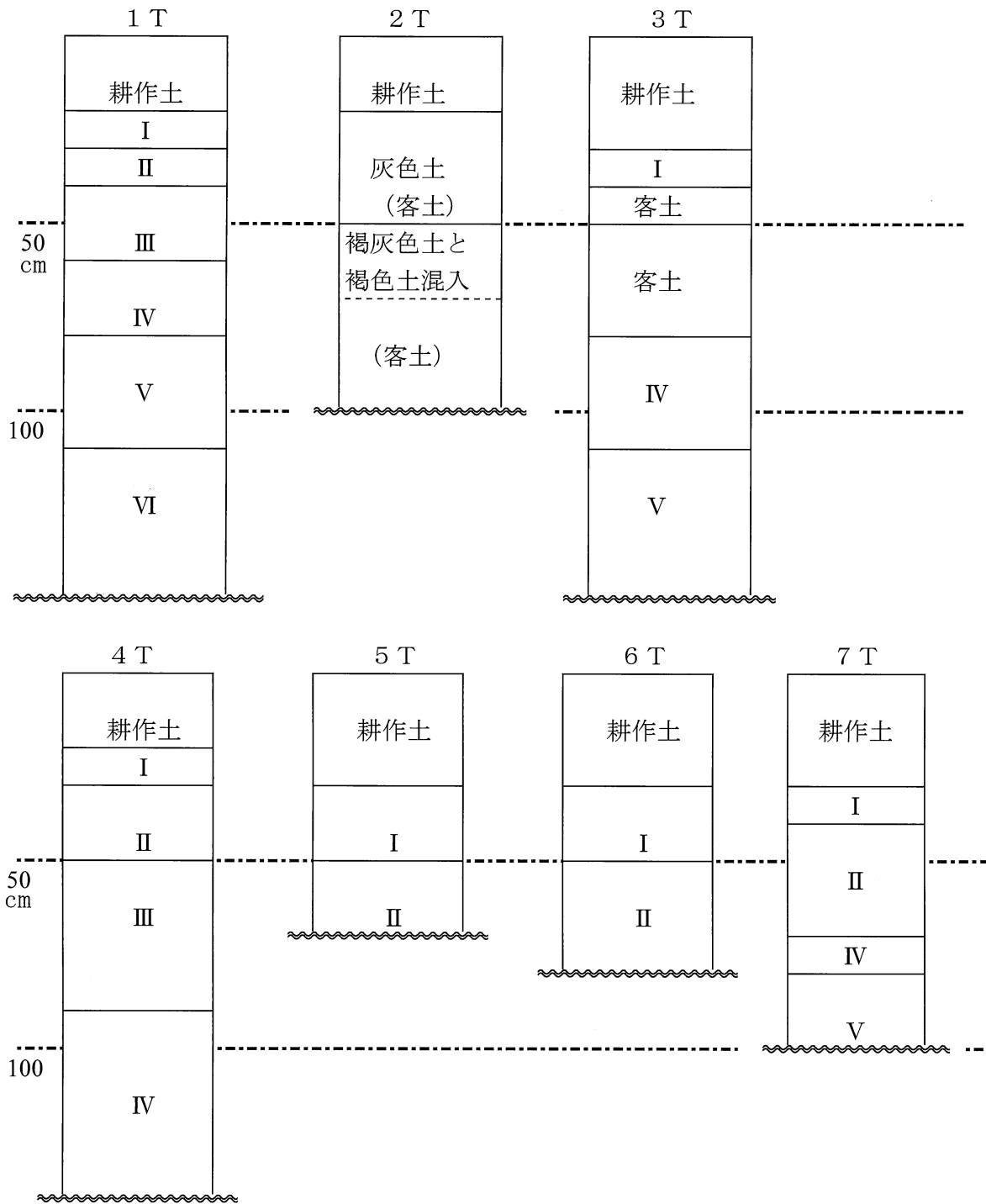


図28 トレンチ土層柱状図

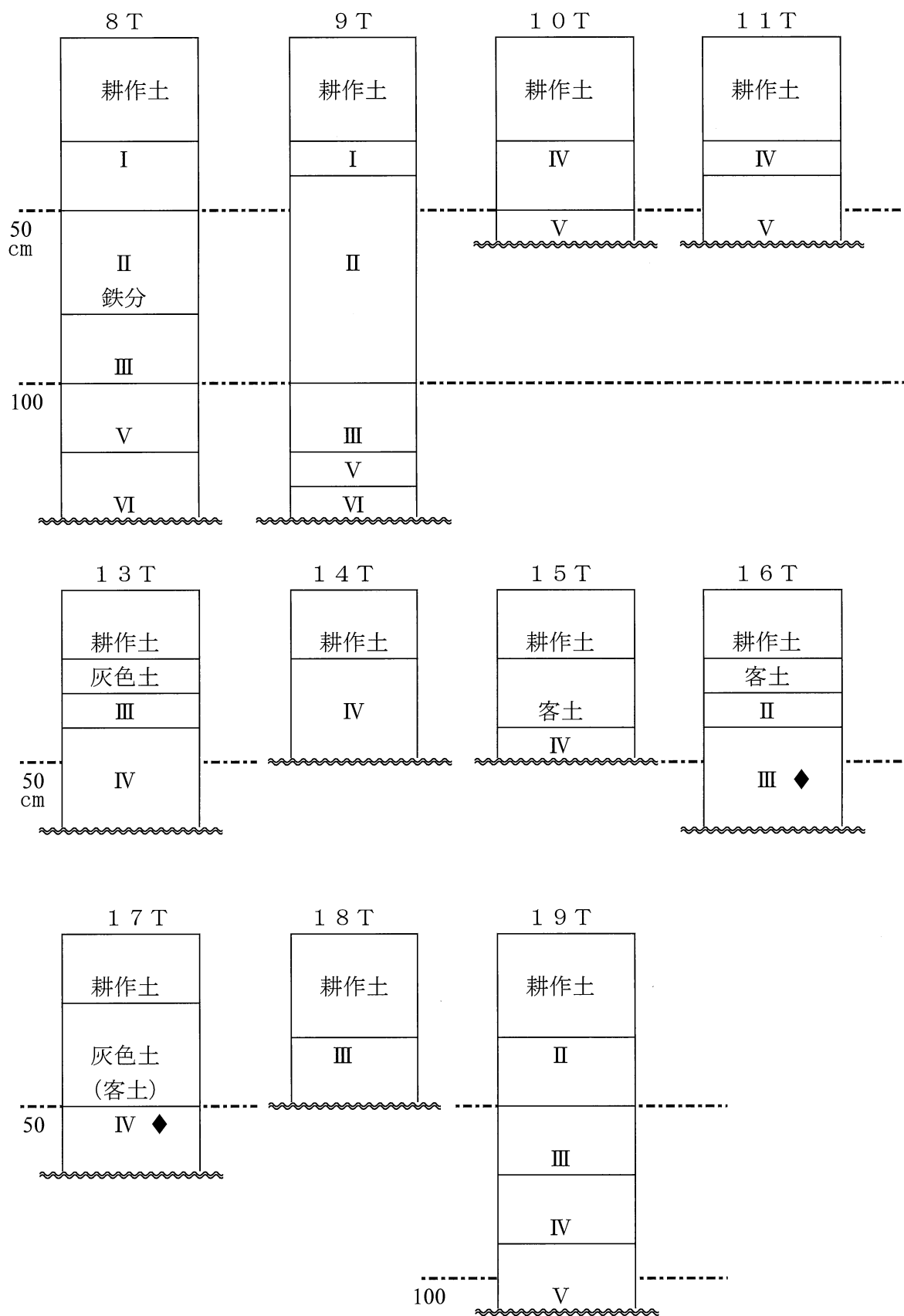


図29 トレンチ土層柱状図



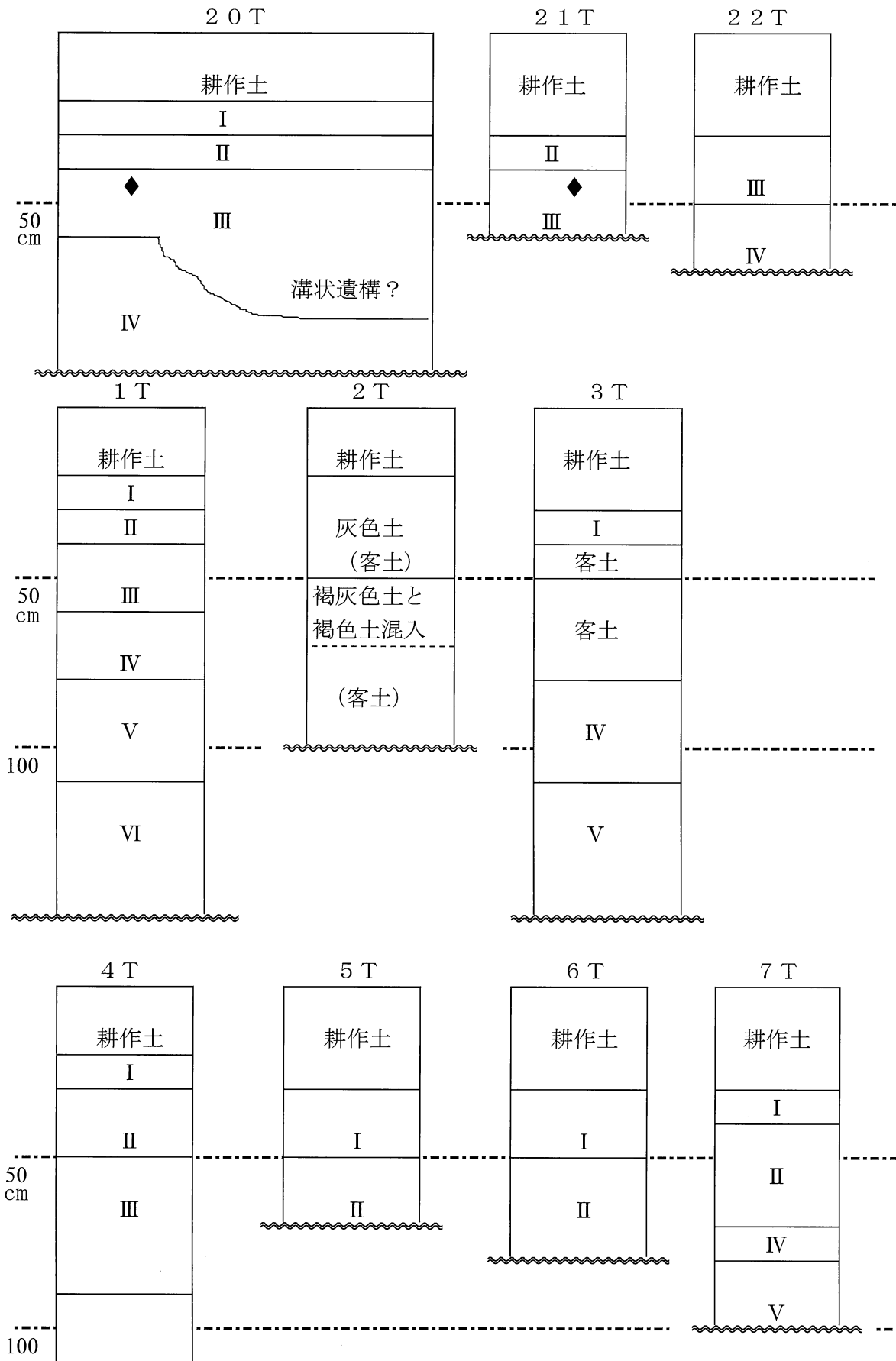


図30 トレンチ土層柱状図

## 5. 船引地区遺跡

船引地区遺跡は、宮崎郡清武町大字船引に所在し、清武川左岸の広大なシラス台地上に立地する。この台地は、宮崎市と清武町にまたがっており、県中部農林振興局が、その北部で「時屋地区」、南部で「船引地区」の農地保全整備事業を実施している（時屋地区は平成12年度終了）。船引地区では、事業進捗と埋蔵文化財保護の調整を図りつつ、平成5年度から清武町教育委員会主体で順次発掘調査を実施してきた。

「船引地区遺跡」とは、この船引地区事業対象地に分布する複数の遺跡を便宜上一括して呼称したものであり、今回報告するのは、そのうちの「坂元第1・第2遺跡」、「上猪ノ原遺跡」、「下猪ノ原遺跡」の確認調査および周知外箇所を試掘調査の概要である。

平成14年度の調査は、下記の日程・箇所を実施した。

平成14年8月19～21日 坂元第1・第2遺跡および周知外箇所（トレンチT1～23）

平成14年9月2日 坂元第1遺跡（トレンチT24～32）

平成14年10月17～19日 上猪ノ原遺跡（トレンチT33～47）

平成14年11月19日 下猪ノ原遺跡（トレンチT48～57）

調査の方法は、まず重機を用いて遺構検出面（主に6層アカホヤ面）まで掘り下げ、遺構の有無を確認した後、さらに選定した部分を、主として人力で掘り下げて、縄文時代早期以前の遺物包含層や遺構の有無を確認した。

各トレンチの土層堆積状況を合わせた基本層序は次のとおりである。

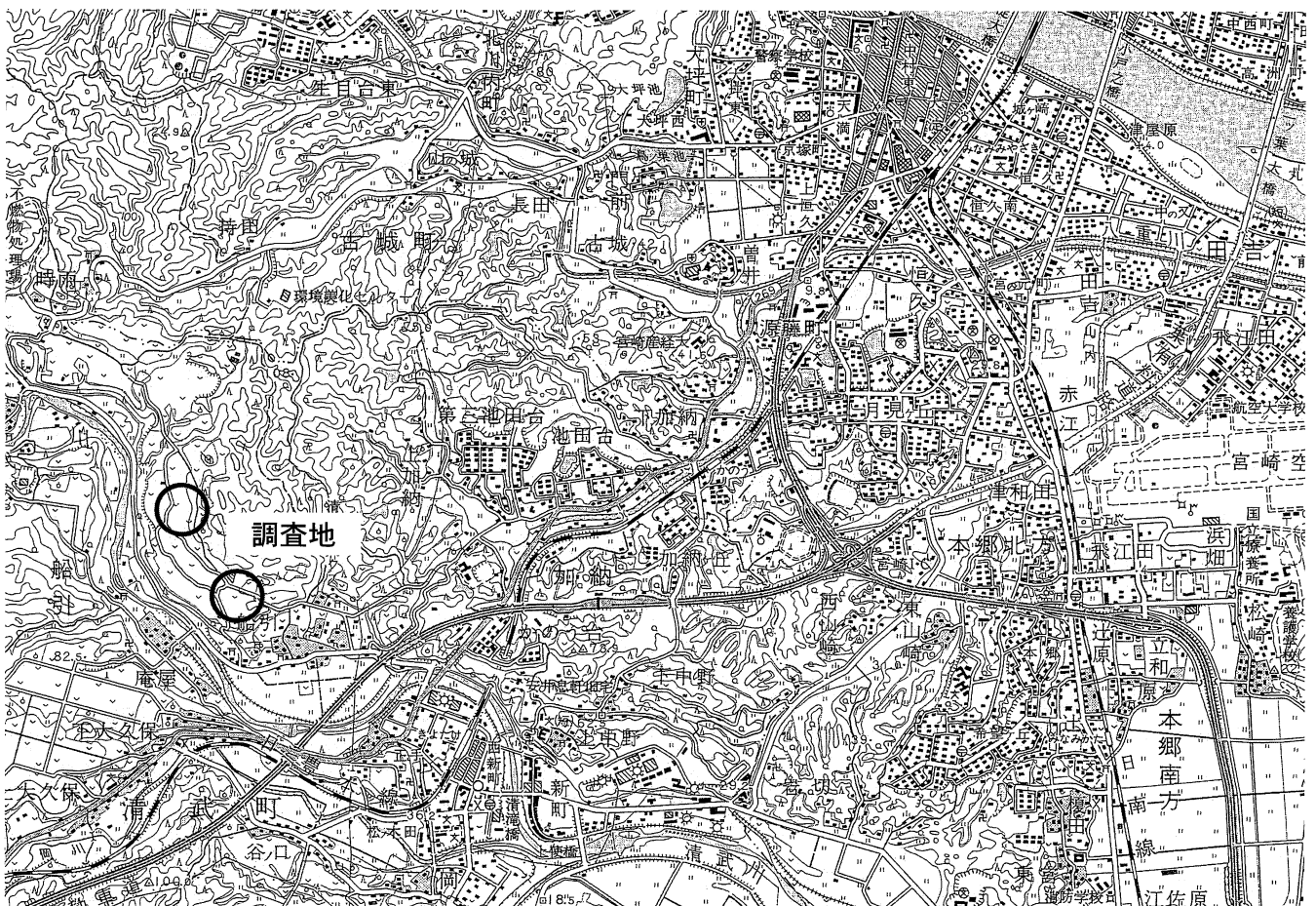


図31 調査地位置図（1：50,000 国土地理院地図「日向青島」より）

## 基本層序

- 1層 現耕作土
- 2層 黒色土……………白色ボラ（文明ボラ？）含む（上層多い）。  
細円礫（5～8mm大）含む  
土師器片出土（T5・T6で各1点）
- 3層 黒褐色土……………高原スコリア（1～4mm大）を含む（下層特に多い）。
- 4層 黄灰褐色土……………砂質で軟。
- 5層 黒色土……………きめ細かく均質。やや軟。保水量多い。  
色調に灰色味ある箇所もあり（T7）
- 6層 アカホヤ火山灰……………《遺構検出面》  
耕作土に近い部分では、土壌化・風化が進み軟（6'層）。
- 7層 黒褐色土……………《縄文時代早期遺物包含層》  
硬。塊状構造。小白斑あり。牛の脛ローム母体の腐植土層。
- 7'層 濃暗褐色……………7層と同様の特徴を持つが、色調が明るく層厚は薄い。  
牛の脛ローム本体本来の色調に近い。
- 8層 褐色土……………《縄文時代早期遺物包含層》
- 8'層 暗褐色土……………8層と同質だが、色調が暗い。  
この8'層と9'層は、ともに上猪ノ原・下猪ノ原遺跡  
における層で、坂元第1・2遺跡の該当層より色調が暗い。
- 9層 淡褐色・明褐色土……………層位的には、縄文時代草創期遺物包含層存在の可能性があ  
るが、今回は遺物の出土無し。
- 9'層 褐色土
- 10層 小林軽石を含む灰褐色土…非常に硬。周辺の遺跡の事例から、この層の直上あるいは  
上層部に後期旧石器時代の遺物包含層が存在する可能性が  
あるが、今回はT43で直上に焼礫1点のみ。
- 11層 明褐色土……………下層では灰褐色の塊状土が入る。  
上猪ノ原遺跡においては、平成13年度の確認調査結果か  
ら、この11層から次の12層にかけて後期旧石器時代の遺物  
包含層が存在する可能性があるが、今回の同遺跡調査では  
遺物の出土無し。
- 12層 明橙褐色土
- 13層 淡黄褐色土
- 14層 シラス火山灰

### (1) 坂元第1遺跡（トレンチT17～T32）

坂元第1遺跡の確認調査は、東側丘陵から西北西方向に下がる斜面にT17～T32のトレンチを設定して行った。

T17～19・20を設定した扇形の畑地は、斜面を削平しており、T19トレンチ東端では、耕作土直下にシラスが現れた。これらのトレンチの西半にはアカホヤ面が残存していたが、検出遺構は

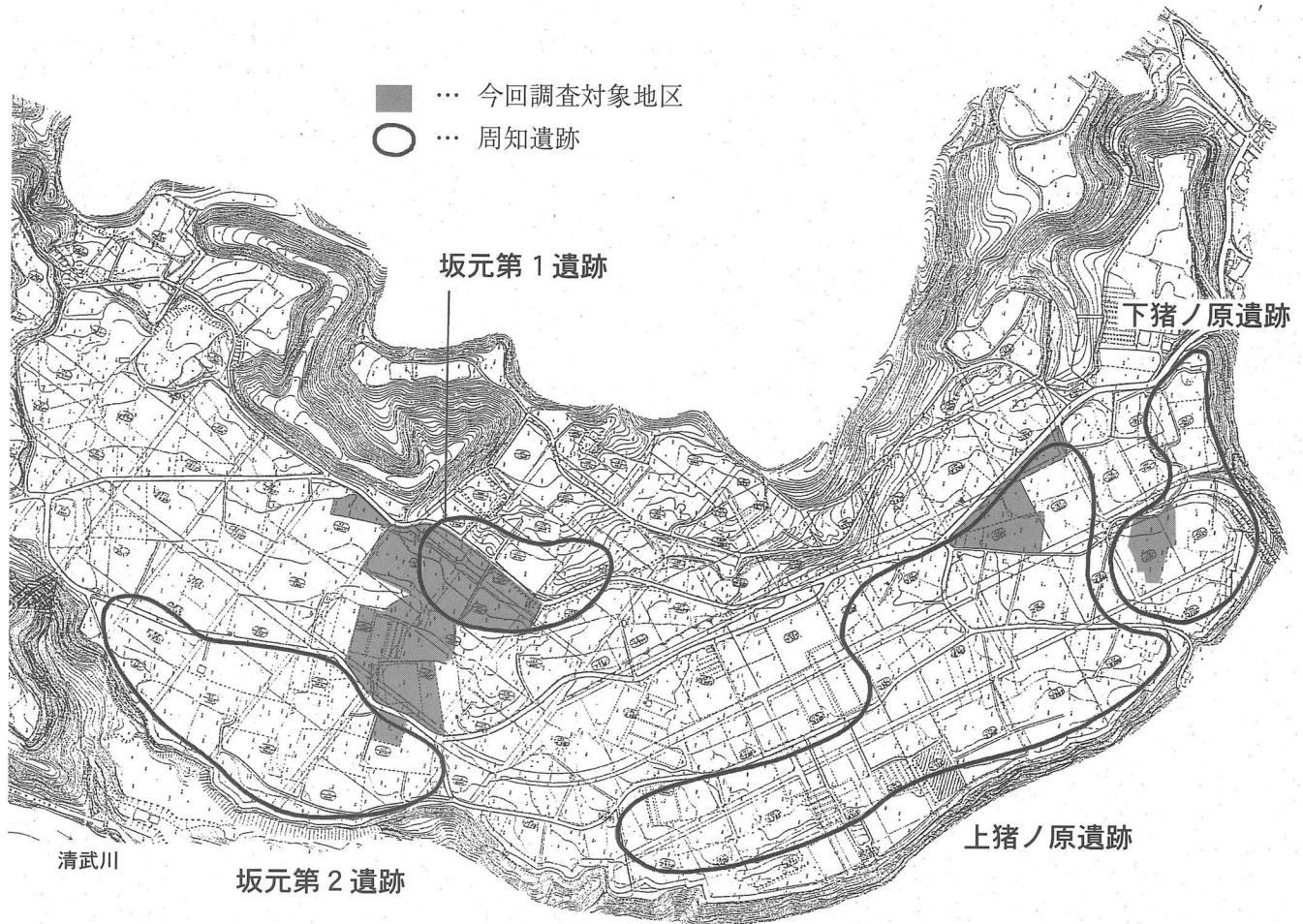


図32 調査地周辺地形、遺跡分布図（1：8,000 工事計画現況平面図に加筆）

現代の耕作に伴うもののみであった。各トレンチ東半では、いずれも表土直下の重機掘削面に7層以下の層が現れたが、縄文早期以前の遺構・遺物は確認できず、T18西端でも、人力で細心の注意を払って掘り下げたにもかかわらず、遺構・遺物が全く検出されなかった。また、耕作土表面にも遺物が散見されなかった。これらの結果から、この部分については、原地形を復元すると「東の比較的急な斜面から南西の狭小な舌状丘陵につながるやや緩やかな傾斜地」であり、遺物包含層は無いと判断した。

その北側のT21～31も同様で、遺物包含層は確認されなかった。T21～28は、ほとんどが耕作土直下によくアカホヤ層を残しており、原地形は非常に緩やかな傾斜である。T22から23に向かって谷状にやや窪み、T27・28ではやや高くなっている。T29～31は、斜面を削平している状況が見られたが、原地形の傾斜は、T29位置が最も急になっており、T30位置では浅い谷が入っている。

T21～31の東側上位にある丘陵斜面については、周知範囲内にあるものの、削平等の人為的改変箇所が多く、傾斜が急であることや、下位斜面への遺物流入等、遺跡の存在を窺わせるような状況が見られないことから、確認調査は不要とした。

T32では、北側のサブトレンチで7層下層から土器片1点、8層上層で礫片が1点出土した。隣接する西側畑地では、平成11年度の試掘調査時に同じく7・8層で土坑状の遺構および遺物が確認されている。

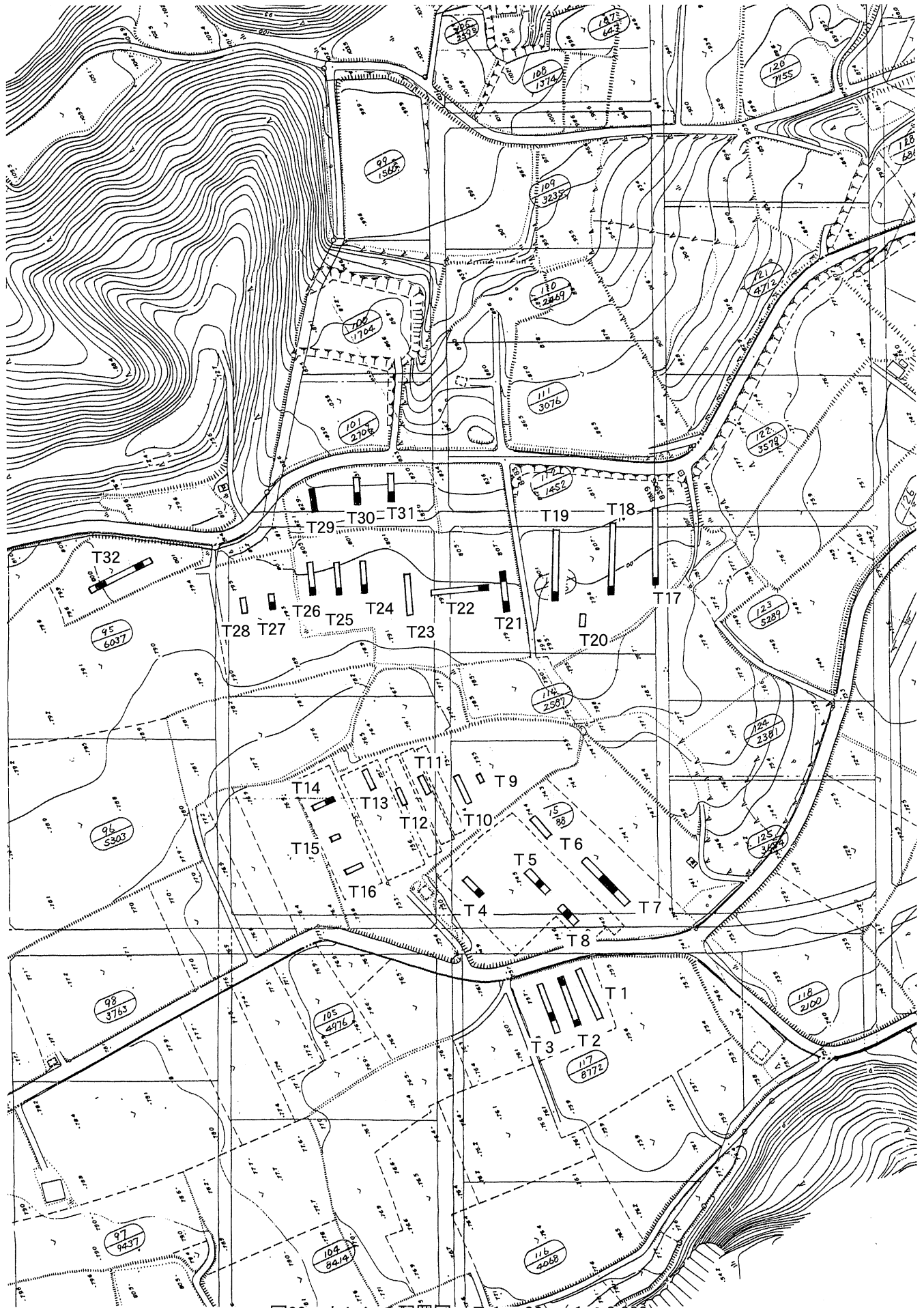


図33 トレンチ配置図 (T1~32) (1:2,000)

## (2) 坂元第2遺跡（トレンチT1～8）

T1～3設定箇所は、坂元第2遺跡の南東端にあたり、T2では、7層で焼礫と落ち込みが検出された。さらに、道路を挟んだ東側の畑地でもT5・6・8で遺物が出土したため、遺跡の範囲が道路東側にまで広がることとなった。

T5・6では、2層中で古代または中世とみられる土師器小片が出土しているが、同時代と思われる須恵器小片も耕作土中から採取した。しかし、遺構については、T4～8の土層断面を精査したが、検出できなかった。

T8では、8層上層で黒曜石の剥片1点が出土した。

ここで確認された原地形は、T5西半部とT6・7間を結ぶ範囲に谷状の落ち込みがあり、これより西はT1～3方向に高く傾斜しているというもので、西半部が平成15年度以降の工事で影響を受けるか否か注意が必要である。

## (3) 周知外箇所（トレンチT9～16）

前述のT4～8設定面で古代～中世の遺物が出土したことで、周辺に住居跡等古代の遺構が存在する可能性が考えられることから、その上段の当該地も試掘対象となった。

試掘の結果、どのトレンチからも遺構・遺物は検出されなかった。T9では耕作土直下にシラス上の13層が現れ、斜面をかなり削平している状況が看取されたが、その北側のT10～13では、地表面から1m前後下に6層アカホヤの上面があり、傾斜も平坦に近くなっている。しかし、T15ではアカホヤ上面が1.7m下にあることから、原地形は、このT15からT10～13の西側を通りT5に続く深い谷状の落ち込みがあると思われる。いずれにせよ、地形が不安定な箇所であり、遺物の出土も無かったことから、遺構存在の可能性もかなり低いと見て、「遺跡無し」と判断をした。

## (4) 上猪ノ原遺跡（トレンチT33～T47）

T46を除き、どのトレンチでも約20cmの耕作土下にアカホヤ面が広がっており、柱穴や溝状の遺構が検出された。T38は、溝状遺構の形状や時期を調べるために、その遺構に添って検出しながら広げたトレンチである。遺構検出面では、時期不明の土師器片が数点出土し、白色ボラが集中堆積している部分があることから、中世あるいは近世の溝状遺構と考えられる。

T35・37・39・41～45では、7・8層で縄文時代早期の焼礫や土器片が出土しており、7層の土坑状の落ち込みも確認されている。

以上の結果をふまえて、工事計画との調整を図った結果、当該箇所は記録保存の措置をとることとなり、本年度、清武町教育委員会が発掘調査を実施している。

## (5) 下猪ノ原遺跡（トレンチT48～T57）

T48～57の確認調査は、本年度の工事計画に途中で変更が生じ、工事による影響が懸念されたため、遺構検出面あるいは遺物包含層までの深さを確認する目的で行った。掘り下げには、全て重機を用いた。

その結果、当初は、原地形が北東方向に傾斜し谷部へ落ち込むものと予想していたが、実際にはかなり起伏のある地形であることがわかった。

T55～57では、南側隣接地同様、7・8層に密度の高い縄文時代早期の遺物包含層が比較的浅い位置に存在しているため、その上位での表土除去や盛土の工事時には埋蔵文化財担当者が立会することとした。

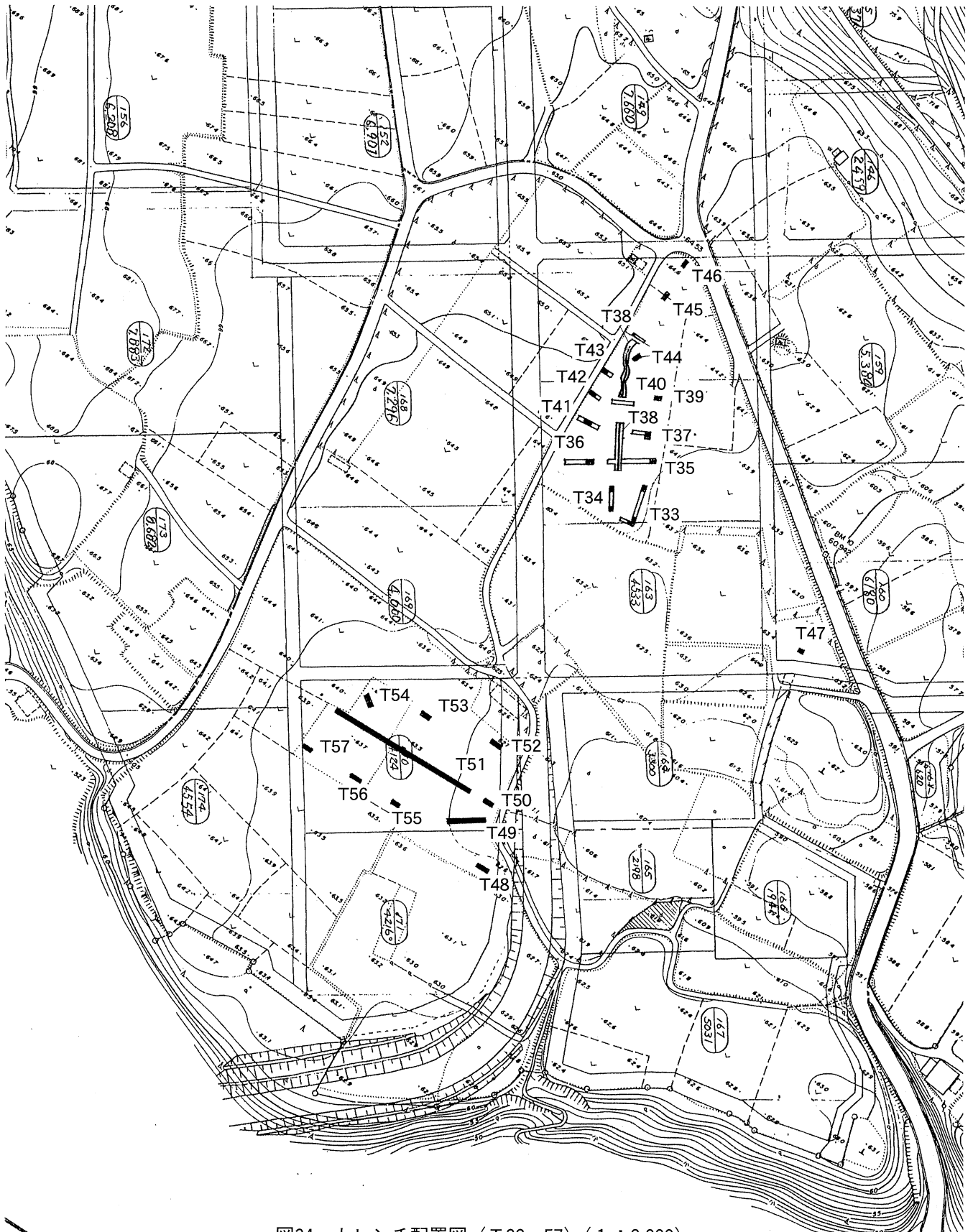


図34 トレンチ配置図 (T32～57) (1 : 2,000)

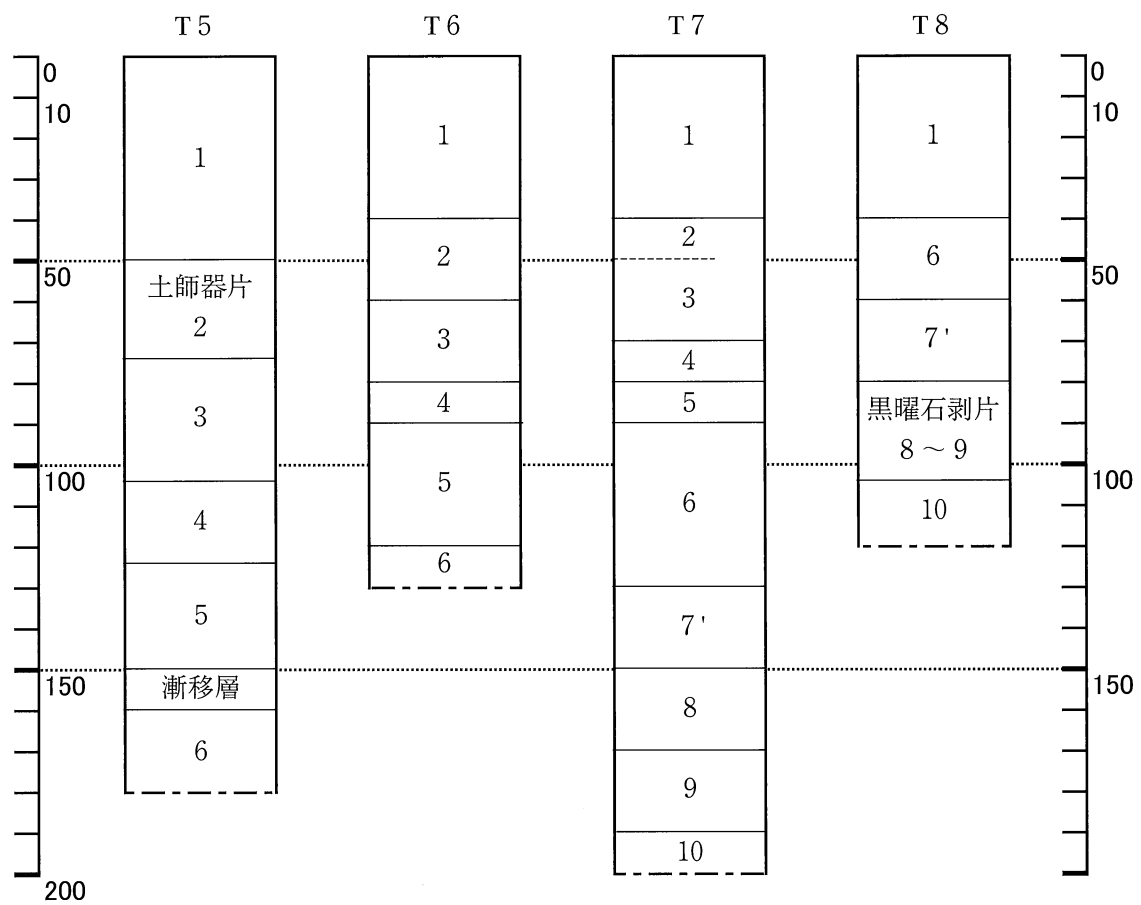
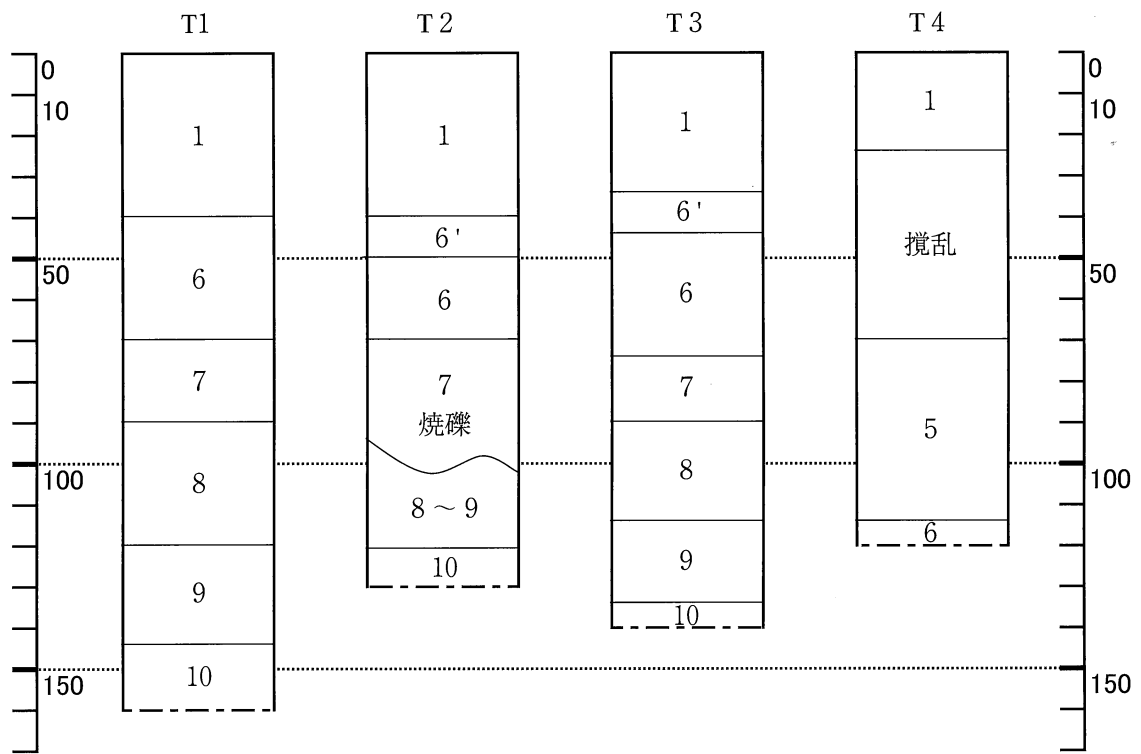


図35 トレンチ土層柱状図



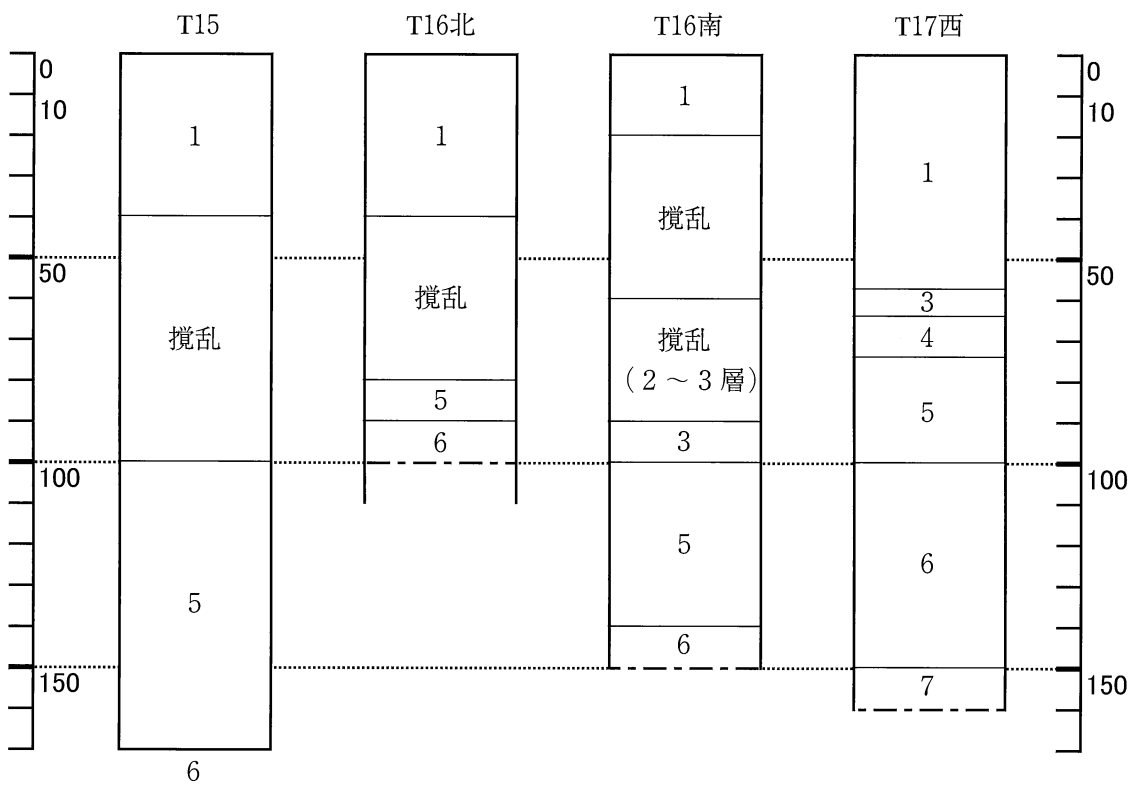
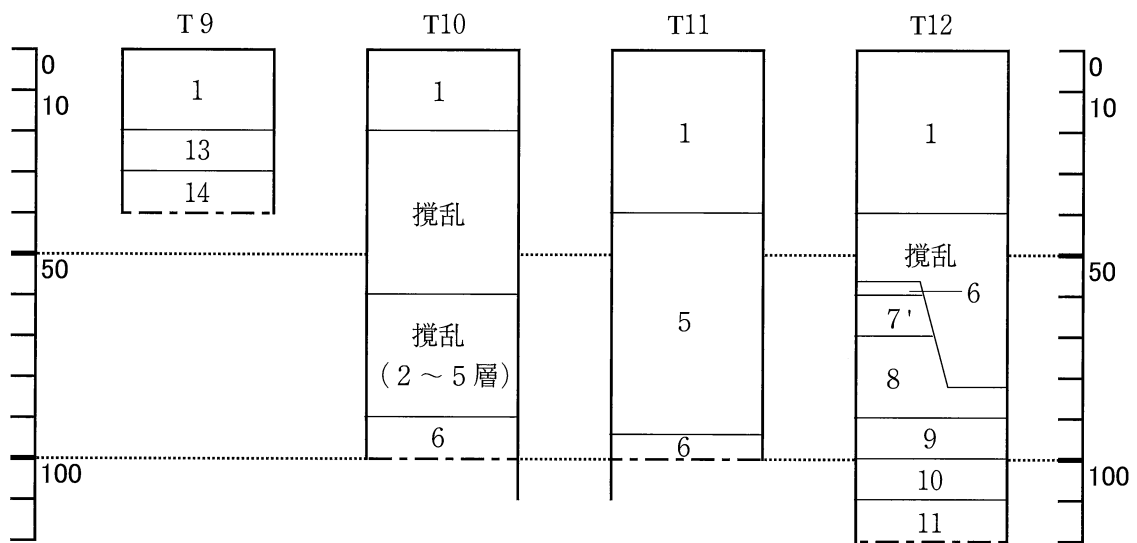


図36 トレンチ土層柱状図

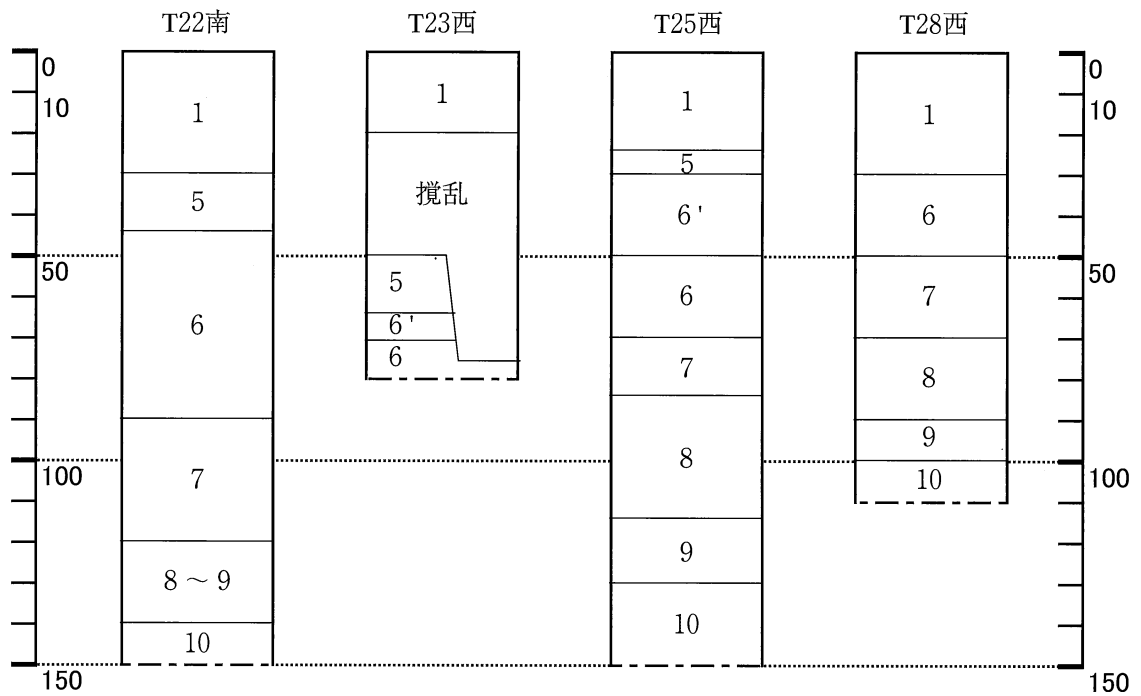
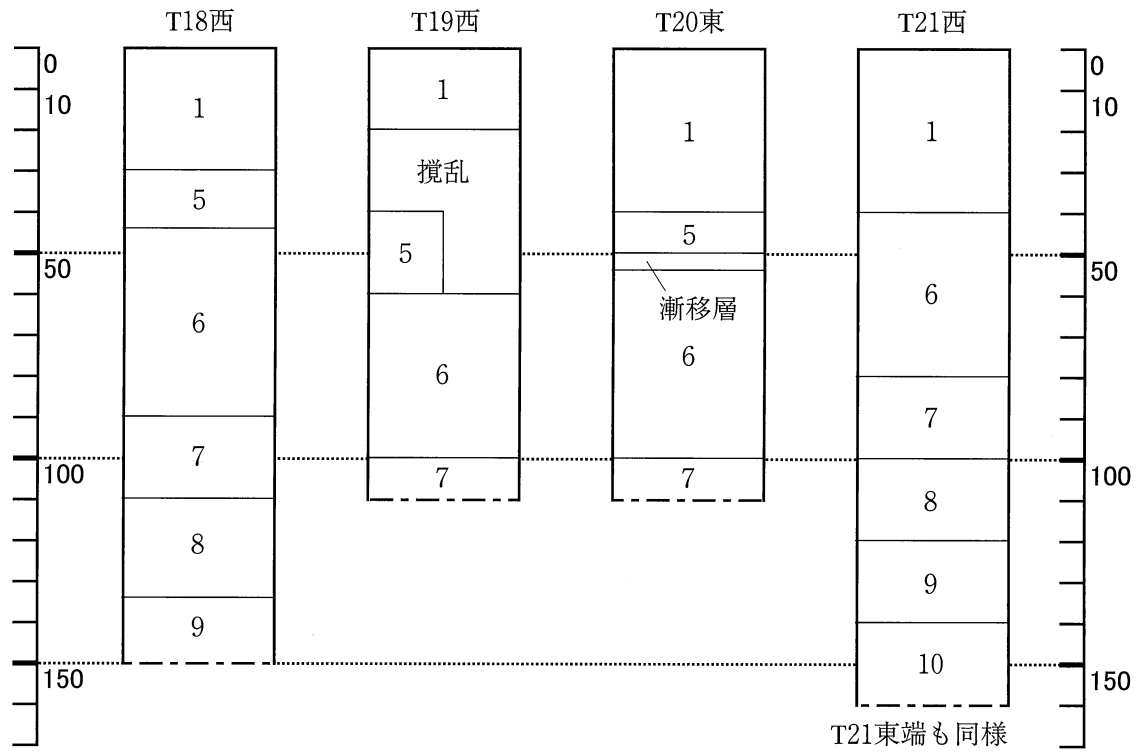


図37 トレンチ土層柱状図

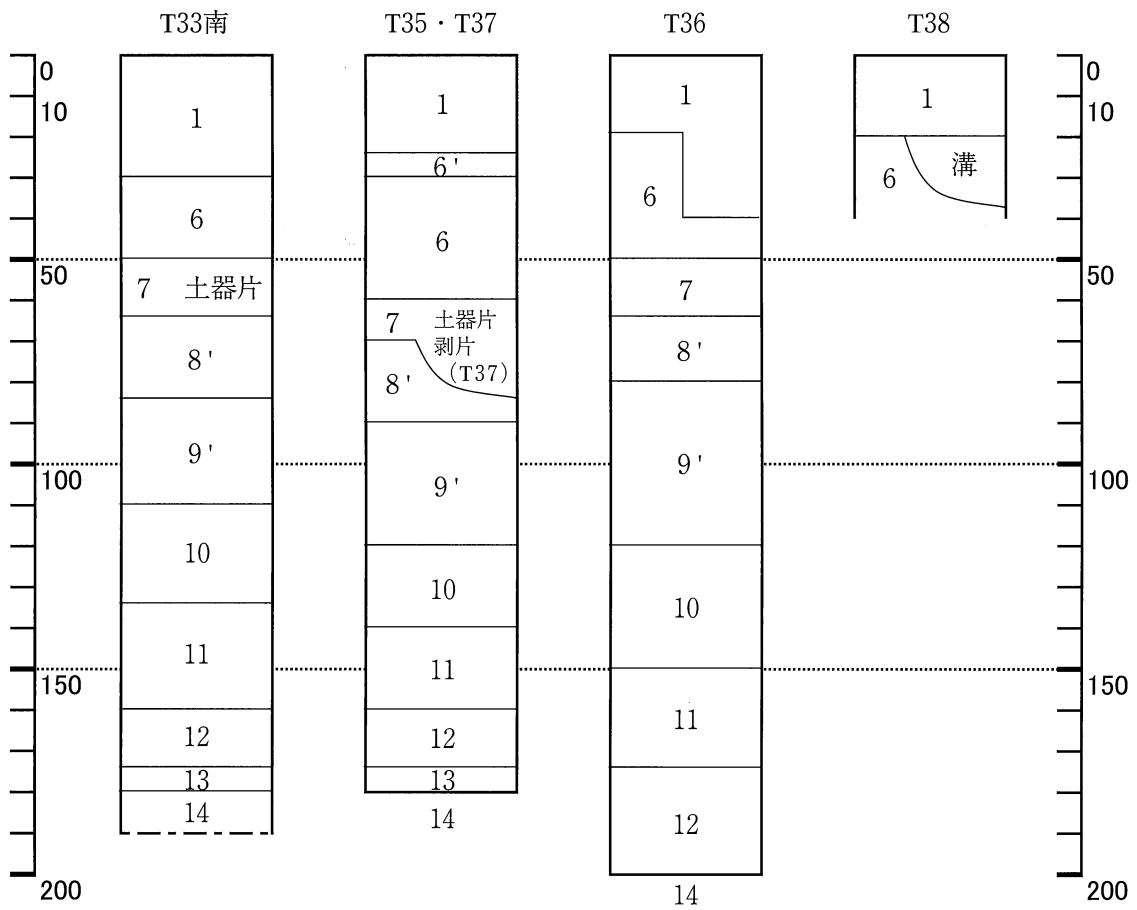
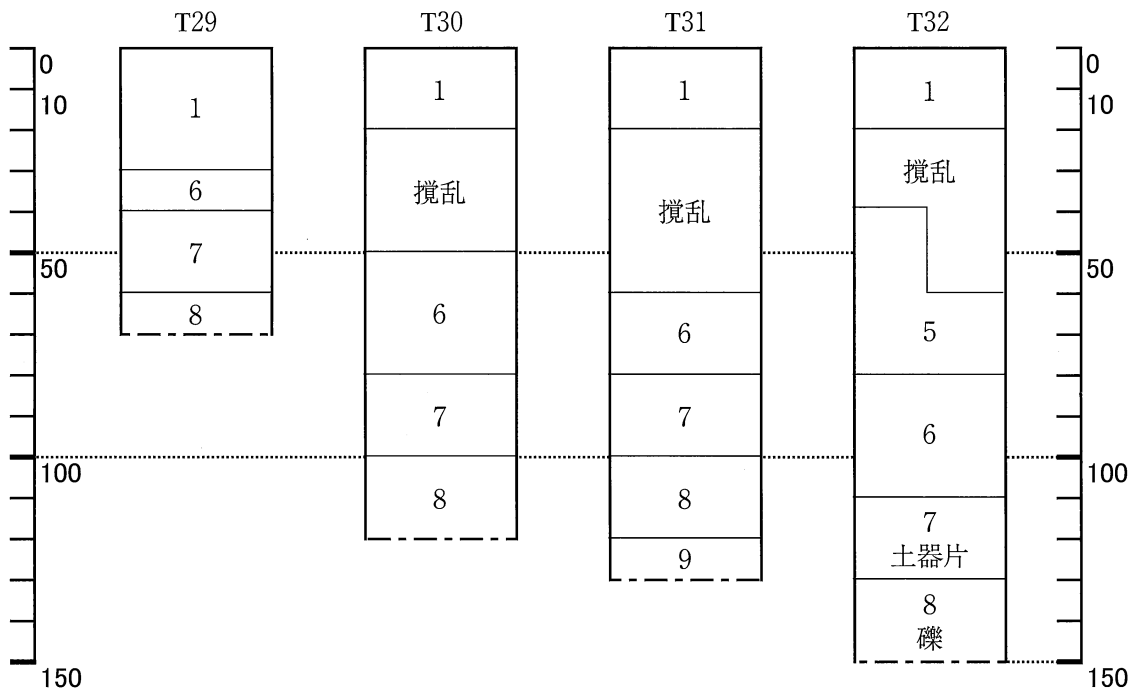


図38 トレンチ土層柱状図

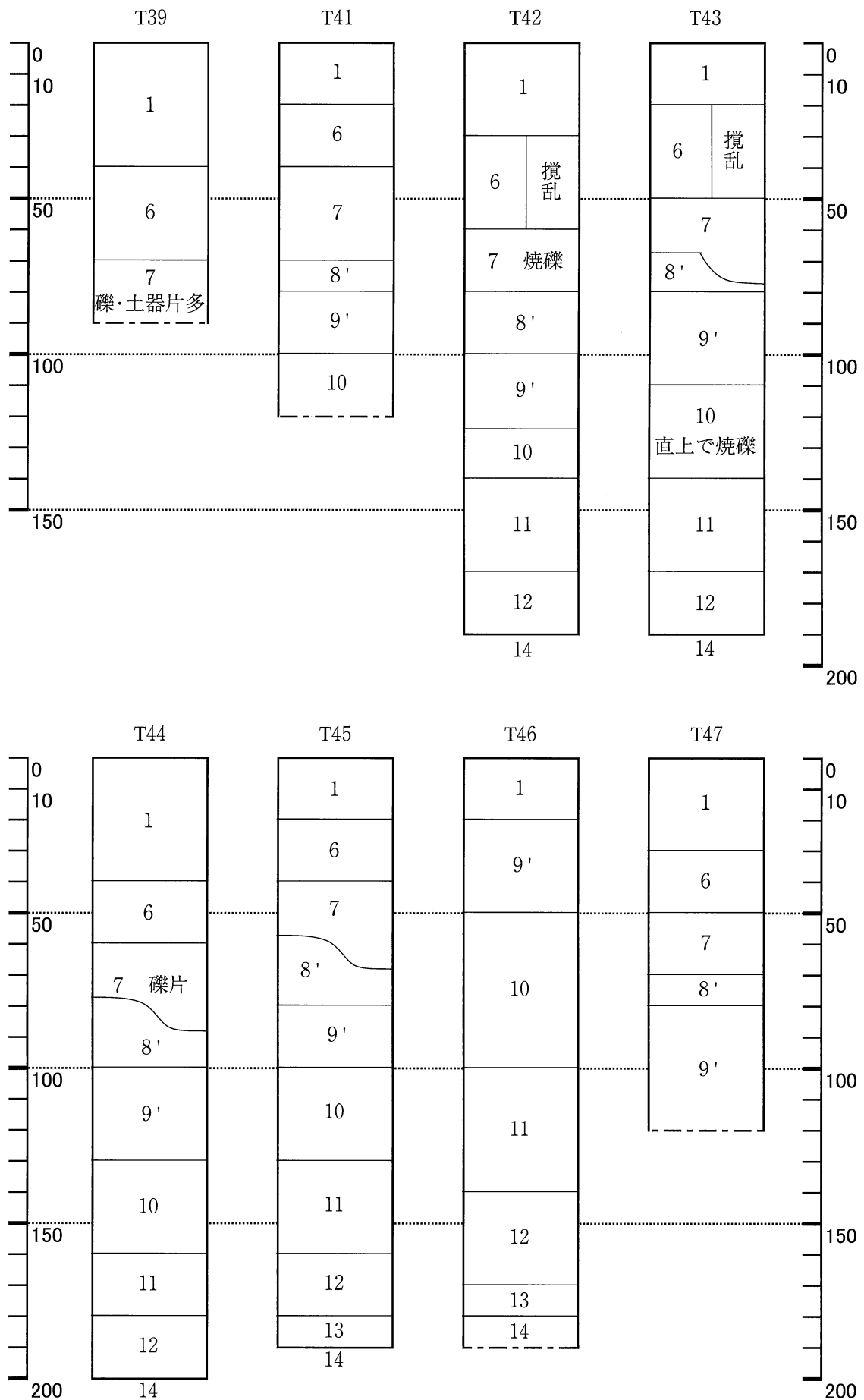


図39 トレンチ土層柱状図

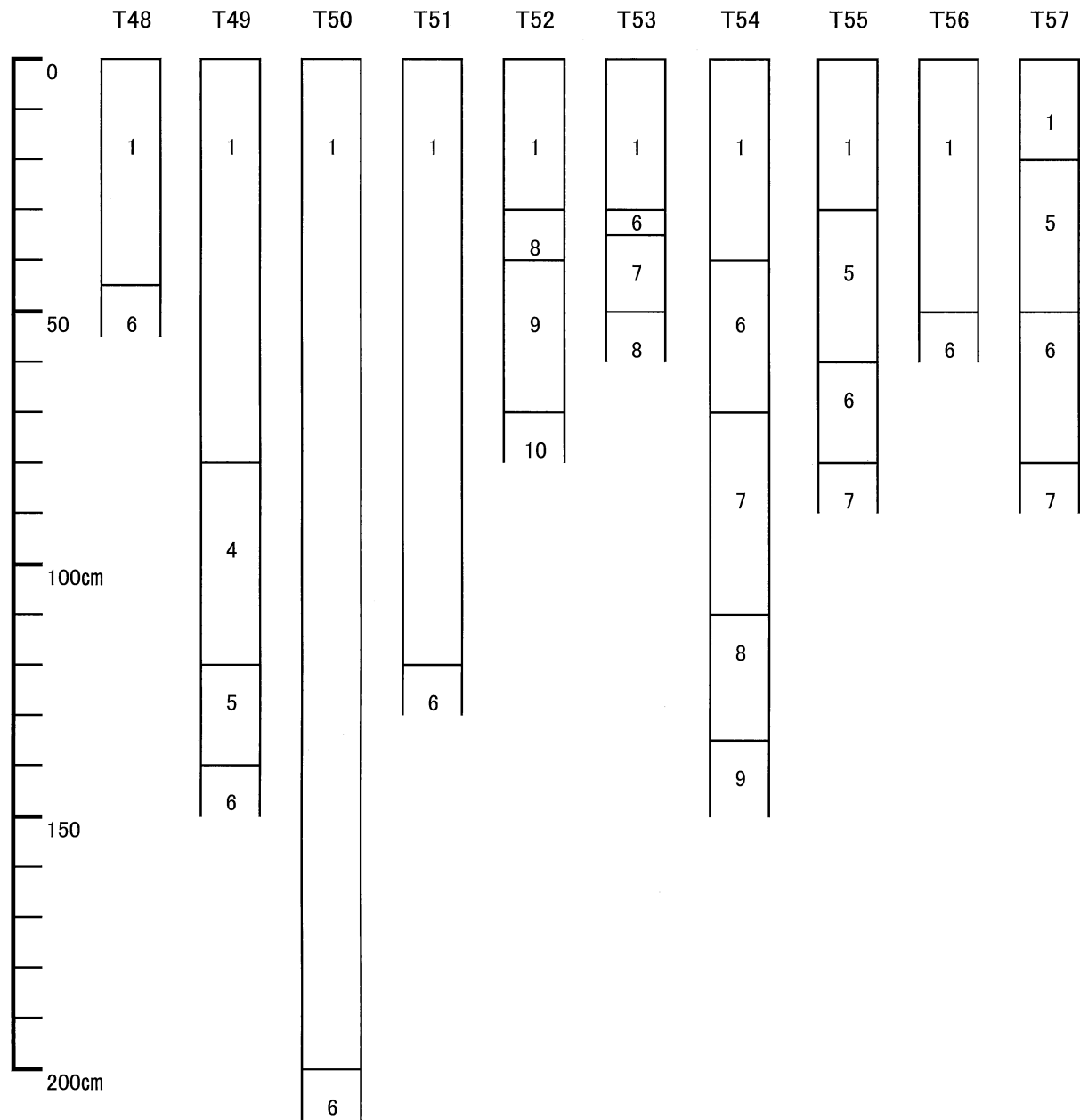


図40 トレンチ土層柱状図

## 平成14年度実施試掘・確認調査一覧

No	事業地区名	遺跡名所在地	調査期間	調査担当	備考
1	県営ほ場整備事業 末永地区	草刈田遺跡 えびの市大字末永	平成14年4月9日～10日	飯田 博之	
2	県営農地保全整備事業 下水流2期地区	築池遺跡 都城市下水流町	平成14年5月23日	飯田 博之	
3	県営中山間地域総合整備事業 二反野地区（ほ場整備）	陣之尾遺跡 綾町大字南俣	平成14年6月18日～19日 平成14年7月8日	竹井真知子	
4	国営綾川二期土地改良事業 小豆野幹線水路	外原遺跡 西都市大字三財	平成14年7月30日 平成14年11月28日 平成15年1月27日	竹井真知子	
5	農用地総合整備事業	横市中原遺跡 都城市南横市町	平成14年8月21日～23日	飯田 博之	
6	県営農地保全整備事業 船引地区	船引地区遺跡 清武町大字船引 （坂元第1・2遺跡）  （上猪ノ原遺跡） （下猪ノ原遺跡）	平成14年8月19日～21日 平成14年9月2日 平成14年10月17日～19日 平成14年11月19日	竹井真知子 竹井真知子 竹井真知子 松林 豊樹	
7	農用地総合整備事業	平原遺跡 三股町大字宮村	平成14年9月5日	飯田 博之	
8	国営大淀川左岸農業水利事業 高浜ファームポンド	高野原遺跡 高岡町大字高浜	平成14年10月23日～31日 平成15年3月27日	竹井真知子	
9	国営都城盆地農業水利事業	黒瀬戸遺跡 高崎町	平成14年11月6日	飯田 博之	
10	畑地帯総合整備事業 安久地区	王子原遺跡 都城市安久町	平成14年11月13日～15日	飯田 博之	
11	県営農地保全整備事業 下水流2期地区	十三束第1遺跡 都城市上水流町	平成14年11月16日	飯田 博之	
12	県営ほ場整備事業 山中地区	山中遺跡群 小林市大字細野	平成14年11月19日～29日	飯田 博之	
13	農用地総合整備事業	梅北宮ノ前遺跡 都城市梅北町	平成14年12月3日	飯田 博之	
14	県営ほ場整備事業 東川北地区	えびの市大字東川北	平成14年12月10日～11日	松林 豊樹	
15	ほ場整備事業 中川原地区	周知外 都城市太郎坊町	平成15年1月17日 ～3月19日	飯田 博之	
16	県営ほ場整備事業 小山田地区	梅木田遺跡近接地 高岡町大字小山田	平成15年1月7日～8日 平成15年3月12日～26日	竹井真知子	
17	県営農地保全整備事業 平長谷地区	都城市平塚町	平成15年2月27日 ～3月20日	飯田 博之	
18	農用地総合整備事業	都城市梅北町	平成15年3月5日 ～3月10日	松林 豊樹	

**平成14年度農業基盤整備事業  
に伴う発掘調査概要報告書**

平成15年3月31日

編集：宮崎県教育庁文化課

発行：宮崎県教育委員会  
宮崎市橋通東1丁目9番10号  
TEL 0985-26-7251

印刷：(株)印刷センタークロダ  
宮崎市大橋2丁目175番地  
TEL 0985-24-4351